

「鶴人」

作

松村
武

赤名萌
曾田昇吾
藤田記子
みやこ(のち藤原宮子)
よへい どうきょう
与兵衛(のち道鏡)

山崎樹範
千代田信一
長谷部洋子
茂手木桜子
えびねひさよ
柳瀬めいみ
荒谷清水
福久聰吾
松村武
スガオロペサチヅル

うんず(のち真備)
まきび
千代田信一
長谷部洋子
茂手木桜子
えびねひさよ
柳瀬めいみ
荒谷清水
福久聰吾
松村武
スガオロペサチヅル

持統帝・聖武帝(首)
じとう しょう む
おひど

元明帝(阿閑)
げんめい あへ
おひと

文武帝(輕)・首〇
もんむ かる
おひと

八嶋智人
はしまちにん
蜂谷眞未
はりやまなみ

秋山遊樂
あきやまゆうらく

田原靖子
たはら せいこ

夏目れみ
なつめ れみ

かぐや
みみなし
うねび
そうど(橘諸兄)
たちばなのもろえ

でなり(のち玄昉)
げんぼう
おおどものこむし

大伴子虫
おおともこむし

謎の助人・中臣東人
なかとみのあづまひと

柳瀬めいみ
柳瀬めいみ
荒谷清水
福久聰吾
松村武
スガオロペサチヅル

長屋王
ながやのわう

吉備
きび

光明皇后(安宿)
こうみょう あすか

久保田武人
くぼた ぶじん

梶野春菜
かじの しゅんさい

高木友葉
たかぎ ゆうよう

屍女歌人
しかばめかじん

屍樂人・行基
しかばねがくじん ぎょうき

孝謙帝のち称德帝(阿部)
こうけん しおうどく あべ

藤原不比等・藤原仲麻呂
ふひと なかまろ

龜岡孝洋
かめおか こうよう

1 暮園

戦の跡

折り重なるいくつもの死体の上を冷たい風が通り過ぎる

屍達が煽られるように立ち上がり蠢き群れていく

屍楽人と屍女歌人が歌い語り始める

屍女歌人
屍樂人

♪滴る心地 紅の 鋸サビゆく 千歳雨 浴びて彩る 鶴千年龜万年
驟雨に煙る古戦場は破れぬはずの不破の関、破れし名残にござります。敗れしオオトモ皇子
は都もろとも淡海の底へ沈み、大いなるオオアマの大王の時代がヤマトの地にて幕を開けた。
このオオアマの大王を、影に日向に叱咤激励をもつて支え続けたのが皇后ウノノサララ。大
王の死後、我が子クサカベを後継ぎにせんとし、腹違いの兄弟、オオツ皇子をあらぬ罪で死
に追い込むそのあからさまな執着に人々は慄いた。ところが肝心のクサカベ皇子は急死。結
局その忘れ形見、まだ幼い孫のカル皇子が成人するまでと、自ら中継ぎの帝として女ながら
に即位なされた。これぞ太陽神アマテラスにも比すべき神々しさ、持統帝におわします
♪春すぎて夏きにけらし白妙の衣干すてふ天の香具山

屍女歌人

山車のように巨大な自分の像を背に、老いて杖歩きもままならぬ持統帝が仰々しく登場
女官筆頭の県犬養三千代が傍に控える

持統 三千代 持統
三千代さん、三千代さん
どうされましたか?どこか痛むとこうがおありますか?
三千代さん、違うの

三千代 持続
三千代 持続
三千代 持続
三千代 持続
三千代 持続
三千代 持続
帝、「さん」いらないです。畏れ多いですかホント、私はとにかくに
三千代さん、聞いて。私わかるのよ、もう長くないのよ
三千代でいいんです、もしくは、「お」とかでも全然いいのです
三千代さん、よく聞いて。言つての内容をよく聞いて、私ももう長くはない…
もしくは呼びかける必要もないんですよ。帝がこの世で一番なんですから。存分に好きにしゃべつていただければ。」さうが全部汲み取りますから、ね?今後「さん」づけ禁止、どうしました?具合悪いの?
聞いてくれないんだもの

またすねちゃいましたか?

私の話を聞かないのは三千代さんだけだよね?誰?誰ですか?「さん」づけ禁止ですよ
だからね、私ももう絶対長くは…
はい!終わり。愚痴撲滅。体によくありませんよ。楽しみなことだけ考えましょう
楽しみなことなんて何一つ…
可愛いお孫様の行く末は?
ああ、それむしろ…むしろまだ幼いカルさんの行く末を考えると余計に…今…私が倒れたらあの子の行く末は…
はい!仮定の話にはお答えを差し控えさせていただきます
三千代さん、私が死んでもあの子のこと…
はい「さん」ダメ。禁止破りました、罰則です、お昼寝の刑だ。(持続を退場せしめ) おい、お休み前のお薬をもて!

何かを木簡に筆で書きながら隠から覗いていた藤原不比等

いやだ。覗き見はいかにも無礼ですね不比等様。そんなに帝の様子がお気にかかりますか？
その王宮第一のキレキレのおつむで、また何事かややこしいとをお企み？

まことに心外な
舍人の殿方の考えることなどと存じ上げませぬが、どうぞ、帝の心をお鑑がせにならう
なことだけは」勘弁くださりませ

不比等やまつなしとは決して

三千代
不比等

今帝が倒れるわけにはいかないのです。皇太子カル様がまだあの年齢ではよくわかつております。政に空白が生じれば必ずそれを好機と、王位を狙う王族のお歴々が一斉に蠢かれましようから

三千代 帝にはいつまでも健やかにいてもらわねば
そのために、あなたが密かに命じられてこる役割についても、よく存じてありますよ、三千代

さん

三千代
不比等
…え? 何のことかしら?
赤い壁に覆われた薬園のこと

咄嗟に去ろうとする三千代の手をとり不比等が木簡を握らせる

三
千
代

不比等
三千代
あなたですよ、三千代さん
え？

私は帝の様子を見ていたのではない。あなたの様子を見ていたんです

え？ 何ですか？

そしてあなたに見とれていたんですね

卷之三

筆かほとばかりでいた
私が、一いはへやひこへ頼つてまく

不器用な男でござります

あの藤原不比等様のお言葉とも思えない

恒田なやーと

でも…勢いがあるわ

運も「アギ」です。人を見る目も「アギ」です

私、主人も、子供だつているんですよ

私もです。妻も子も何人もいる

何なんですか？

わかりません

お手伝いがないの日本

みつともない、みつ

♪ギリギリと キレキレと 霧暮れかかる裏道の 珍竹林の 秘密の花園

畝傍、耳成、香具山の大和三山囲みし麓、藤原京。その左京を外れた荒野の

の密命を受けた県犬養三千代が取り仕切る秘密の薬園がございます。赤い土壌に囲まれたそ

の園を、知る人は暮れ行く園、暮園と呼ぶ。そこでは畏れ多くも帝の寿命を先へ先へと延ばすため、長寿の神祕の研究が日々なされておりました

一人で暮園を巡る不比等と三千代

池があつて花畠もある公園のような薬園を大勢の老人たち（被験体＝屍樂人たち）がゆつくり徘徊している
家屋の中では薬を飲んでいる老人がいる。中には苦しんで痙攣している者もいる
寿命が尽きた者の死体が鐘の音とともに運び出されていく
三人の官女たちがいろんな場所でかいがいしく働きながら、上司の三千代が偉い男連れて現れたことを気にしている

三千代
不比等
三官女

「からうですのよ、不比等さん
いいんですか三千代さん？何やうジロジロと見られてる気がしますが

うふふふ

三千代
不比等
三千代

大丈夫です。気になさうないで。私のすむじことやかく申すような者は「」にはおりません。さあさあ

おお、これは一壁の向こうにかようになに色とりどりの花畠が隠されてるとは
ここでは百種以上の薬草を育てているんですよ。担当たりの加減に色々と変化を持たせたため、場所を区切って試しています。唐渡りの珍しいものが半分以上ね。あ、お氣をつけて。
うつかり素手で触れるとかぶれるものもあります
うふふふ

三千代
三千代

煎じればそのまま劇薬にもなるものも。大切なのは調合です。「これら何種類もの薬草を混ぜ合わせて配分を細かく試し、長寿に効く薬を作る。気の遠くなれるような作業ですけど、他ならぬ帝の御為。毎日皆で取り組んでもらつてます。（働いているかぐやに）」「苦勞様、かぐやさん、」「苦勞様で」「やります！」

かぐや
不比等
明るくていい職場ですね。「」を仕切る三千代さんの人柄でしょうか

三千代
不比等
うねび・みみなしうふふふ

さん、づけはれいれ…お互い禁止とこいじりで
それそろ、そうなのかな

三千代
うねび・みみなしあい、三千代さま、うふふふ
不比等
あの女たちは、年季の入った妖精か何かですか
三千代
失礼ですわよ

「いや、うねびさん、みみなしさん、あんたたち、ふざけてないでちゃんと仕事しなさい
うねび、みみなしあい、三千代さま、うふふふ
あの女たちは、年季の入った妖精か何かですか
失礼ですわよ

うねび、みみなしは池の畔で笛と太鼓を奏でる

不比等
三千代
ああ、楽器操る楽人か
でもただの楽人じゃないのよ

一人の奏でる音色に誘われ池から大きな亀が這いあがつて来る

不比等
三千代
不比等
三千代
おお！
亀を焦らす音色を奏でるのよ
おお…おーこの光景はまさか…噂に聞く亀の産卵か
そして貴重な亀の涙をご覧あれ

うねび、みみなしが産卵で泣く亀の涙をスピードのようなもので採取している

不比等
なるほど亀は万年を生きる長寿の生き物引

三千代

かといって、それを万年生きて確かめた人がこの世にいるのもなし

亀が雄叫びと共に産卵する
かぐやはその卵を回収する

血まみれの男が現れ、気合の声と共に亀の首を斬り落とす
男は死んだ亀を抱えて小屋へ入つていく

その小屋へかぐやは卵を運ぶ
みみなし、うねびはその小屋から亀の足や首が浸されたスープを外へ運び老人たちがそれに群がる

不比等 あの小屋は?
三千代 ああ、あそこへは近づかない方が…

包丁と亀の甲羅を持った血まみれの下男、でなりが小屋から出でてきて甲羅の上に腰かける
周りを見回してくすねた卵を呑み込み、草を噛んで一服する

不比等 ほう…

ちよつといいですか（不比等にことわって男に近づき）おい、こいつ、おまえ、おまえだおま
え、おめえしかいないだろ、牛みてえに草もぐもぐ噛んでるおめえだよ、おい、おめえ今、
超大事な亀の卵呑み込んだろ

…呑み込んでないです
向こうから見えたんだよ
…まだいっぱいあるんですよ
だから一つくらいいいってか?

昨日から何も食つてないんですよ

で今食つたのか
いや嘘だ、おとといからだ

でも今食つたろ
食つてば、

食事なし

その草、薬園のだろう？

その辺の草、そんなにうまそうに食いつのか?

草だから全然うまくないっすよ
なめんな

腹減つたら何でも食えますよ

おめえ貴重な長寿のエキス、とさくさで身体に入れてんじゃねえぞ！

何だと、

三千代さん
おかしいだろー!どんな仕事だつてよ、最低限の食事くらい出さねえと、人間は死ぬだろ?ま

かない出せよ！

貴様ごとく使い捨てが生きて死んで死のうと知ったことが
亀一体バラバラにするのも相当体力削られんだよー。そう簡単に

し、抵抗しやがるよ、当たり前だよ、生きてんだからさーはあーホントやりがいもねえしー！
血まみれだし！可哀想だし！

おめえーJAN、その可哀想な亀が涙流して生み落とした命、つまみ食いしてんだらうがー

でなり

三千代

不比等

三千代

でなり

不比等

三千代

でなり

不比等

三千代

でなり

三千代

でなり

かぐや

三千代

うねび

三千代

みみなし

三千代

つまみ食いじゃねえー。主食として一命の連鎖としてー。
不比等さん、あっちへ行きましょう。ああ、なんかすっかり口無し、口無しだわ
さん、づけまだしちゃいますよね
あ、やだ、「めんなさい」、もう……おまえ、あらためてな。今、おまえを見逃すのは単純に、
今、後味悪いの嫌なだけだから
何言つてつかわかんねえぞ
こいつ斬りますか?

剣が穢れます

三千代さんは、本当に心やさしい人ですね
ふざけんなよー……え? おい!

三人の官女が戻ってきてでなりに猿轡をかましてグルグル巻きにして縛る

こいつも被験体に回しましよう。このまま水一杯与えずに懲らしめて何口生せりゃれるか観察対象に

ただ三千代さん、まだ命だけは、まだ「この男に」関しましては

は? 何言つてんの?

こんな下賤な男でも、いや、「この男だから」とか、獸の性に思いが至る部分もあると叫ぶ

すか

獸の性?

ですから、獸の命のやり取りに関しましては、「この男に」と感じ取れる機微といつものに頼
る部分も少なくないような次第で…
つまり亀のさばきをやつせてたわけだろ、こいつこ~また代わりの奴婢を連れてくればいい

じゃないの？

かぐや
不比等

三千代
かぐや
不比等

かぐや
不比等

かぐや
不比等

うねび
みみなし

かぐや
不比等

うねび
みみなし

三千代
不比等

うねび
みみなし

三千代
不比等

うねび
みみなし

三千代
不比等

うねび
みみなし

三千代
不比等

うねび
みみなし

竹林と共に現れる屍たち

竹林はもう御覧になられましたか、お客様？
あちらにある鶴の竹林でござります

この暮園では鶴の長寿の研究も進めております

鶴？

ちょっと待つて、私の頭「なし」に不比等さんと勝手に話さないで

なるほど。亀の如く万年生きずとも鶴は千年だ

鶴は実態が実はよくわからない謎めいた鳥です。つまり、なかなかしつぽをつかませない
しかしだんだんわかってきたのです、どうも鶴の長寿にはからくり仕掛けのような趣がある。

あんた達いい加減にしなさいよ

そのことに最初に気付いたのも、この、でなりだつたんです

ぜひ詳しく聞きたいものだな。三千代さんがよければですが

はあ～私達すっかり、さん付け禁止の期を逸しましたわね

「この暮園の竹林には毎年季節になると、鶴の群れが舞い降りました。
ふき一つ、キーキつもきー、亀は何匹、鶴は何羽、だ鶴亀算

屍樂人
屍女樂人

いいとこに来たよ。おまえも一緒に探してくれ
あ、はい

とにかく田を離しちゃいけないって何度も上から言われんだけどさ、さすがに難しいよ一人
じゃ。「これは最低でも一人いて、交代で休めないと無理だつて。絶対もう一人りますつて
前から申し出て…いねえな、どこの消えたんだよ?

あ、あそこじゃないですか?

え?どこの?

あの、ほら、あそこですよ(と言ひながらしつといなくな)

ちょっと、ちょっと待つてよ…どこのだよ?どこの…あ、いた!鶴いた!捕まえ…え?あれ?あれ?
いつ?何だよ?肝心な時に何が助つ人だよバカ…ん?イヤこいつ違うよ、違う鶴だよ…おい!
い!…で結局その助つ人の姿を以後一度も見ないわけ
助つ人なんぞ認めた覚えはないぞ

そなんですよ

我らも一体何が何やら

で、結局鶴が一羽どこのかへ消えてしまったと
鶴泥棒じゃないの?その二七助つ人が鶴を盗んで逃げたんだよ
ところがこれが、何日かして数えてみると鶴は減っていないんだ
ほほう

何それ?

で、特に問題なしどう」とであらためて報告をしていませんでした…

でもまあ奇妙なことではあります

それに…な…

うん…似たようなことが、その後も何回かあつたんだよ

謎人 謎人 謎人 謎人 謎人 謎人
でなり でなり でなり でなり でなり でなり

三千代 三千代 三千代 三千代 三千代 三千代
かぐや かぐや かぐや かぐや かぐや かぐや

うねび うねび うねび うねび うねび うねび

不比等 不比等 不比等 不比等 不比等 不比等

三千代 三千代 三千代 三千代 三千代 三千代
かぐや かぐや かぐや かぐや かぐや かぐや

うねび うねび うねび うねび うねび うねび

みみなし みみなし みみなし みみなし みみなし みみなし

でなり でなり でなり でなり でなり でなり

三代
でなり

似たようなこと?
だから、鶴が消えて、そしたらまた助つ人が現れて、その助つ人がいつのまにか消えて、結局最終的に鶴は消えてないっていう…

助つ人が現れた光景が再現される

三代
不比等

でなり

何なの?

助つ人はいつも同じ奴なのか?

それが全然違うんだよ。いつも違う奴が来る

振り向いた助つ人の顔は別人（無表情なお面）である

不比等
かぐや

三千代
でなり

三千代
でなり

三千代
でなり

ほう…不思議な話だ
よかつた。このことどうも気持ち悪くて、三千代さんにどう伝えたらいいかと
…その助つ人…誰よ?
誰よって言うかだな
何よ?…え?
(うなずく)

ですから、このでなりは、貴重なのです!

果たしてこの時、鶴千年の命の秘密に、彼らは触れつつあつたのか

♪暮れる秋空 紫の 扇押し開け たなびく雲と 見まがう鶴が真一文字に 昼と夜との

仲を裂く ああ 句い立つ 暮園腐れ縁♪

うねび 尾楽人 尾女歌人

扇たちが群がり、大きな紙で一羽の折り鶴を折る

折り鶴が夕空に飛んでいく

獵師たちの放った矢が空に描いたアーチの下を折り鶴はくぐつていいく流れ矢が足をかすめたらしく、鶴はうまく着地できずに草むらに倒れ込む

2
鶴の恩返し

薪を背負つた百姓与兵衛がそこに出でわす（与兵衛が見つけた時から鶴は折り鶴ではなくペベット）
与兵衛は鶴の傷ついた足を水で洗つてやり、生えていた草を噛み潰して塗つてやり、岩陰に静かに横たえ

与兵衛

屍樂人

明日の朝が明けぬまで、リリードジットしてんだれ。すぐに動いちや治んねえからな。可憐そうに。運が悪かつたな
いやむしろ運がよかつた、のかもしね。そりじやなかつたかもしね。そんな百姓与
兵衛と鶴の因縁の物語、「」に始まる。「鶴人」

何日か後、与兵衛の暮らすそまつな小屋に、紙売りうんずが訪ねてくる。

(入口外から声かける) よう! 調子はどうだい、与兵衛ちゃん
(中から顔出して) 何だよ、その質問は? 調子なんて年柄年中いいわけねえだろ
質問じゃねえよ、挨拶だよ。本当、眞面目馬鹿だよな、おめえは
うるせえ、うんず! おめえみたいなお調子者と一緒にするな
一緒にしてねえよ。調子狂うよな。言つとくけど俺は馬鹿でも眞面目でもねえから
知らねえよ。用がねえならうどつと帰れ
用頼んだのはおめえの方だろうが
うんず
与兵衛
うんず
与兵衛
うんず

うんず

用頼んだのはおめえの方だろうが
ああ、そうだった

ういが、結局俺みたいなフリーハンドでタイムフリーな人間が動きまわる」と世の中は…
ああ、こ難しい話はいいんだ

全然こ難しくねえのよ

与兵衛
うんず

うん、まあ、結果からいふと、こうなつた（銅錢の束を渡す）え！ 一九、何ぞ！

えこれ何だ

卷之三

うんず

卷之三

うんず

- 5 -

あのハサハサした端切れか？

端切れなんて言つた。言つた？俺が言つた通りだ。ありややっぽり相当醜陋な品だったよ。俺ら下々にはわからなくともな、どういうわけか王宮の皆さまにやひつぱりだ。たこだよたこ。あれにな、墨で字を書くんだってよ。たこだけにハハハー・キヤニツてこいつんだ。この

野郎、えらい飯の種掘り当てたやがつたな。で、どうやつて手に入れた?心配すんな。出し抜こうなんて気はないよ。おまえが手に入れ俺が売る。販売、営業は任しどけ。このうんず様の専門分野だ。ハハハ、ホレ(ひょうたん出して)、祝杯だ!(家に入ろうとする)

与兵衛

何だよ、これくらいの贅沢いいじゃねえか？やつとこさ俺たちにも、運が向いての、うんず

与兵衛

明日までにもっと用意ある。匾額^{ひがく}に取りに来てくれ。あの事は任せぬ何だよ?……つていうか、おめでたの、キヤ!!、どうやつて手に入れたんだよ?、こやんつや、當業^{とうぎょう}としてこなは俺ち知つたらばんこ

与兵衛

うんず

与兵衛

うんず

与兵衛

うんず

うんまあそのうちな。今日は帰れ。悪いが一人で飲んでくれ
おいおい、何だその態度は…俺が売つてきてやつたんだぜ。俺が売らないと錢には…
わかつてゐる。感謝してゆし、これからもお世話になる!
お世話になる!つて、何だよその態度、あつかましいな、おい
とにかくまた明日。それじゃあな
そう言つて与兵衛はつちの中に消えたんですが、俺は氣になつて裏廻つて小屋の中をひっか
り覗いてやつたんですよ

「ふん」と呟してゐるのは、手相見のそらび

そらび
うんず
そらび
うんず
そらび
うんず
そらび
うんず
それは犯罪だなあ。どんな動機でも覗きは犯罪だからね。僕は言つたよ。はい、それで?
女がいたんです。あの馬鹿の与兵衛にですよ。しかもこれが、いい女なんだ
君それは本当の意味で覗きだな。よくないね。僕は言つたからね。はい、それで?
その女がどうやら、この、紙つてヤツをね、用意する張本人みたいなんですよ
ああ。ふうん。うむうむ。で、これはどうやって用意するわけ?
そじがわからないんだ。その女がね、必ずしつつ言つて奥の部屋に消えるんですよ

与兵衛の家の光景。謎の女みやーの姿

みやー

絶対に見ないでくださいね

そらび
うんず
それ、見てほしいんだよ
誘つてますよね?

そういう

うんず

やらしいなあ
さすがに思うでしょ？…そういう先生クラスでも。なのに与兵衛は絶対奥へは行かないんだ、あの眞面目馬鹿。ああそうかいって、何なんだよ、あの二人の関係性！

でもそれ以上踏み込むのはあくまで個人的な領域になるからね

そういう

うんず

そういう

うんず

わかつてますよ、プライバシーは大切ですよ。個人の生活は他人の好奇の視線から守られないと云ひません。だから僕はそれ以上のアプローチを現状ペンドイングします
しかし君は本当にこの難しい言葉を自在に操るよね

そんなことはこの際どうでもいいんです。問題は、この高価な田口キャミが、どうやって与兵衛の家に発生するのかっていう、そのプロセスじゃないですか？気になるでしょ？…そういう

先生クラスの方でも

そういう

うんず

うんず君さ、君は結局僕に何が言いたいの？
相談してんですよ。僕だけじゃ受け止めきれなくて。人の相談乗るのが、そういう先生のお仕事でしょ？

そういう

うんず

でも僕は君、基本は手相見るのが仕事だからや形だけでしょ？

そういう

うんず

ちょっと貸してみなさい（うんずが手を出す）手じゃなくて（紙をとつて匂いをかいだり）…誘つてますよね？

でもそれは…結局…大事などいふは見れないんでしょ？

見てはいないです…僕はまだ

うんず

与兵衛の小屋の奥でみやこが一人で紙をすいている光景

与兵衛は密かにそれを覗いている

うんずがそุดとが連れ立つて裏側からの光景を覗くつとしている

みやーじが紙をすいている周りに徐々に屍たちが影のようにして群がつて流れ作業で紙すきをしていく
やがて折り紙の途中みたいな形態の屍が現れ始める
折り紙は徐々に折り鶴に近づいていく
ついに人のみやーじの姿は完全に消え、氣が付けば大きな折り鶴が一体で紙をすいている情景に

うんず・そうど　え!

屍女歌人

♪きーつ、キーキつときー、亀は何匹、鶴は何羽で鶴亀算
おい！（鎌を持って立つて）

与兵衛　うわ！

うんず・そうど　うんず、そうどー。

与兵衛　はい

与兵衛　おめえら、今見たことを絶対人にしゃべんじゃねえぞ
うんず・そうど　はい

与兵衛　しゃべつたら、その舌かつ切つてやつからな

うんず・そうど　はい。僕たちは何も見てません

与兵衛　そうだ。おまえたちは何も見てない…俺も何も見ていない。お互いその方が得なんだ

みやこ　（奥の部屋から疲れた感じで出てきて）あら、与兵衛さんのお友達？じゃあ、目一杯おもて

なしをしないとね

うんず　え？

与兵衛　いやいや、いいんだ、みやーじ、ーじの人たちはすぐに帰るから

みやこ　そうなの？そりや残念だ

与兵衛　それよりおまえ、疲れてんじゃないか？少し休んでらよ

みやこ　ありがとよ、おまえさん。だが、ちよいと仕入れに行つてへるよ

与兵衛
みやこ

うんず

そうど

うんず

そんなことなら俺が行くから
そりゃあんたにや無理だよ。私がやつとくかうや。それよりお友達と町へ行つてもなよ。は
い、今日はこれだけ（紙束を渡す）
おお！これだよ先生、銭の種、すくすく育てとキャハハをすべ
ツルを巻き付け上の空

飛んだ鶴の恩返し、こいつが本当の金づるだ

3 偽装

王宮前の広場にて星空の下、大規模な持統帝の葬儀が行われる
貴族たちが追悼の音色を楽器で奏でながら立ち並ぶ

屍樂人

かつての悲劇の皇子オオツと同様、持統女帝を母とせぬオオアマ大王の子、太政大臣タケチ皇子が病でみまかられました。時に持統帝の後釜としても名の上がる血筋も実力も確かな男の王族でした。その死をもつて、ようやく緊張状態から解放された持統女帝は、当年十五歳になられた孫のカル皇子について王位を譲り、ほどなくその波乱の生涯を終えます。直系の孫へと王位を繋ぐ古いとの戦に、女帝はギリギリの執念で勝利なされたのです。カル皇子、すなわち文武帝の目の前で、持統帝の遺体は史上初めて火葬に処されました。その炎は、多感な少女ウノノサララの激動の人生そのままに、激しく揺らめき夜空を焦がすのでした♪煙になつてたなびくうのサララ 星の光をかき集め 夜明けのゾトキ輝きの 天の叢雲（むらぐも） 夜うのサララ 春すぎて 夏うのサララ 衣ほすてふ サンカラサルば

屍女歌人

三千代がおおげさに号泣している。そのそばに寄り添う不比等

吉備

：嫌な泣き声ね。しらじらしくて。持統のオババ様にあの人ほど引き立てられた者は他にい
ないというのに。橘なんて立派な苗字もいただいておいて、あれは悲しみなんてまるで感じ
ない性質なのかしら母上？

あへ

吉備さん、そんな言い方をするもんじやないよ。三千代さんは、もう何年も前から風前の灯
だつた先帝の命を、文武帝が即位なされるまで何とか繋いだ手柄者だ。母上がもつと早く倒
れていたら、他の方が玉座について、こうしてあの子が即位することもなかつたかもしけな

い。それに三千代さんはそもそも、幼いカルを育てあげてくれた乳母でもあったのだし
母上はあの者達に嫌悪感のひとつも感じないのですか？三千代も不比等も妻子がいる身で
すよ。しかもあの年で。母上とそう変わらないじゃないですか
年は別に関係ないわ

何それ？まさか母上も何かあるわけ？

そりゃ私だつて夫を失つてもうだいぶ経つしね

ちょっと、本当にやめてよね

ハハハ、ありやしない。夫クサカベ皇子様を亡くしてから、私が思い続けた男子（おのこ）
は、我が子カル皇子だけ…

氷高皇女が現れる

あへ 吉備 氷高 あへ 氷高 あへ 氷高 あへ 氷高 あへ

あへ 吉備 あへ 吉備 あへ 吉備 あへ 吉備 あへ 吉備

氷高さん！

そのカルがようやく即位して、母上もこれでようやく、ベビキから解放されたというわけだ
あなたどこ行つてたの？探したのよ

私は常に私のいるべきところにおります

先帝が天へと旅立たれるという大変な時に…

この世を確かに生きた人間が、煙に巻かれて天へと散りゆく様を、一体どんな顔して眺めて
いようものか、そんなことをつらつら考えているうちに、ここへたどり着いてみれば、それ
を考える必要がすでになくなつております

もう、相変わらず何言つてんだか、ひだか、だか、何だか

そんな遅刻の言い訳は通らないよ姉上、一体何を…

これまでのようすに墳墓に埋めて葬り奉らば、月明かり翳りし拍子などに、黄泉の国よりこの

世に戻つてきかねない勢いのお方。肉体が消滅する火葬を決めた者はそれを恐れたのでありますでしょうか

これ水高…

あへ
水高

あへ
水高

あへ
水高

あるいは、その黄泉の国に「そオババの帝」によって命蹴落とされた不運の怨霊、二上山の頂に眠るオオツ皇子然り、恨み骨髓と手ぐすね引いて仇を待ち受ける餓鬼どもがおりましょう口が過ぎる

御身を焼き尽くしても、天へ空へと逃げんとしたは、持統帝自らの末期のあがきやもしけぬ…

水高皇女（ひめみこ）、立場をわきまえなさい。しうじうしき遅刻は許しても「れだけは忘れてはならぬ。このアヘは帝の生みの母。あなたと吉備は血を分けた帝の姉妹。我らは亡き母上持統帝の遺志を継ぎ、待ち望まれた文武の御世を、そこから先へと綿々と続く偉大なるオオアマの正統を、太き幹となつて支える女系の連鎖

持統帝の靈が屍達と共に地面から湧き出てあへの影となつて重なる

あへ・持統・屍 心せよ。「の身は」「一身にあらず。生死の境を越えて、我らの道はただ一つ

持統帝の幻影は一瞬で消える

…まるで一瞬おば様が乗り移ったみたい…
これを呪いと言わずして（行こうとする）

水高さん、どこへ行くの？

心配御無用。私は私のこんなベキといつへ行くだけです（去りゆつある）

吉備
水高
あへ
水高

氷高の向かおうとしたといふから文武帝が現れる。まばゆいばかりに輝いている

文武
三千代

母上、氷高の姉上、吉備、そして三千代…まゝ」と玉富とはさりげやかな女たちの世界だな何を申されますか？中でも一等輝かしき星は、帝！」本人に他なりません、ああ何と眩しき、何と神々しき！

文武
不比等

悲しみを透かして垣間見る、この世の何という美しさ。かような女たちの醸す慈しみと輝きの世界を、男の我がただ一人で背負つていけるものだらうか

文武
不比等

帝、お忘れなく。ここに地味な男も影の如く侍りますれば頼りにしているぞ、藤原不比等

文武
三千代

さればこの度正式に、この橘三千代さんを妻に迎える」といたしましたお互い、色々と身辺の整理説得もつきまして

文武
吉備

それはめでたい。先帝も天上にてそれを喜びでおいでだらう

文武
吉備

ああ！あの人たちはどうしてああの？帝に取り入り独占しつぱなしで、自分たちの話ばかり！

文武
吉備

ううたえるな吉備。田ぐじう立てて張り合つ相手ではない

カル
「帝」！

氷高
吉備

一言ようしうござりますか？

つて言つてゐそばかう！

姉上！

おやめなさいつて

カル

帝：可愛い弟カル！そう。あなたは今や立派な帝です。うん。もう一人で大丈夫よね。だが

う私は「」を離れます。どうかお許しあげたまご。母上も、叔母も、ごめんなさい、止めても聞きません

敷から棒に何を、「」を離れて「」へ行くところです姉上?

わかりません。少なくとも都の三方に壁となつてそびえる、あの大和三山の向こうかな。私は私のいるべきところを探す旅に出ます。うん。馬に乗つて…

馬に乗つて都を去る氷高皇女

屍樂人 心纖細にして果斷なる女、氷高皇女は、そつと都をあとにし、自分探しの旅に出ました

文武 何言つてんだか、氷高だか、何だか

以前よりやうにのんびり牧歌的な後の暮園に文武帝が御幸する
被験体老人の髭は伸び、薬草園は草が巨大化し、大きくなつた亀がゆづくら地を歩いている

屍女歌人 ♪命寿ぐ ゆづべの夢 醒まして染めぬく ゆづべの色の あせても未だ 永久(と)づくべ)
に燃ゆる

三千代と不比等が文武帝を歓待している

三千代 帝、本田は「の暮園に御幸遊ばしていただき、ほれとにかくあつ難む」と「」がます。三千代

は…三千代は… (泣く)
おい、三千代、先走つて感極まるな、御前であるが

三千代
ああ、申し訳、「ヤギ」とませぬ。ただ、あの可愛らしく泣きながら我が乳をむかせられた、あのカル皇子様が一・まことに「立派になられたものよ」。そんな眩しき帝が、この乳母に、三千代の薬園を案内せよと「お」と畏れ多い。はい、今、この暮園の究極の成果、とつておきの長寿の秘薬、おろしたての新鮮な亀の切り身に長寿薬草を配合した、「三千代の命汁」を只今用意させております。おババ様の持統帝も生前毎日お口上がりになつていった妙薬に「ござります」。これをぜひとも本日は帝にも「試飲いただきたいと、いやもぢりん、帝はお若く潰刺、心身す「じぶる」健康であらせられぬわけで、「ヤギ」ますが…

文武不比等
ハハハ、相変わらず三千代のしゃべりが興じ乗ると、なかなか一の「は黙り込んでしまう。故にわれもこゝして言葉少なき性質に育つたま」とそうなのですよ。うるせうるせうるせ

由し訳ゞゞごめぬ

よいのだ。よいのだ…我はずーっと幼くて、何より我を大切に思ってくれた先帝の思いの深さを知らぬうちに、当の持続帝はこの世を去られた。だから今こうして、オババ様の残された思い出の一端に触れ、その深き愛情の空白を埋めていく。三千代、もっと川の流れの魚のように、おババ様のことをまくしたておくれ。その心地をこの耳に覚えさせのう。

申し訳ありません（うねびがかゞやに耳打ちしておおむね）とを繰り返して云ふ
おい、二千代、帝の話をよく聞かんか。とてもいいお話をなされておるところ
だつてやうやく料理が出ないと間が持たないわよ

三千代 不比等 三千代 不比等 かぐや

今なんないと
かぢやたゞ、どうなつてこの命十六から十七歳になつて

かぐや

不比等

文武

かぐや

三千代

かぐや

不比等

かぐや

三千代

かぐや

三千代

その二三日前の暮園

屍樂人

只今すぐ…

どうで「ジギ」しますか帝、御膳を待つ間に、鶴の竹林を散策なされては?

ほお、ここには鶴もいるのか?なるほど鶴は長寿の…

申し訳「ジギ」ませぬ!

ちょっと!何?

三千代の命汁は今、出ません!

何だ何だ、いきなり

実は、亀をさばく職人が…あの、でなりめが数日前から亀小屋に立てこもって、戸を閉めきつて外に出でこないので。今忙しいの一点張りで

今忙しい?

同期のうねびと仲良しのみみなしがギリギリまで説得を…

何が今忙しいだ?で何が同期だ誰が仲良しだ?その情報いらぬ!

三日前の夜中のことだった。泣く子も黙る丑三つ時に一人の男が大きな袋をひきずつて、暮園の中へ持ち込んでは途方に暮れている。どうやらこんな時刻になるのは計算外だったようだ。そんな時間に暮園の中にも起きているまともな者はいなかつた。いや一人いた、でなりである。これは口は悪いが、至極まじめな男であつた。竹林にて鶴の生態を寝ずに観察し続けて記録をつけていた。そのでなりがただならぬ気配に気づいて正門のあたりに姿を現すと、二人の男、うんずとそらどは少しホッとして、初対面の人的好さげなおじさん、でなりに事の経緯を説明した

二人の話を聞いて、でなりが袋を開けると中に猿轡を噉まれて縛られたみやーが姿を現す

…」いつが…その…鶴だつて…いつのか？

でなり
うんず
間違いありません。変わると…」の田で見たんです。」の女の正体は鶴なんです。な、

先生

残念ながら事実です

どんな感じで変わつていった？

どんな感じとは？

だから、変わると…」を見たんだろ。どんな感じで鶴から人へ、人から鶴へ変わつていくん
だ？

えつと…

例えば、「う、羽が段々皮膚になつていいくのか？尖つた嘴が段々引っ込んでくるのか？」

先生

うーんそれがね、やあこれは非常に説明が難しいんだけどね

そうだね

まあ簡単に言つとね、徐々に変化するところよりは、変わってから『氣づくんだね
は？

鶴から人、あるいは人から鶴、変わつてから、あー変わつたーって『氣づくんだよね
つまりすぐえ速いつてこと。瞬間的なよそれは。瞬き一つの間に起るわけ。だから俺た
ち凡人には変わり目は認識できないのよ

あるいは季節みたいなもんだよ君。寒くなつて初めて秋になつたつてわかるだろ。もうそ
時には夏は終わつてるんだよ。もう遅いんだよ。俺たちの夏は知らないうちに終わつてたん
だよ

何か違う話になつてんぞ先生

まあ…わからないでもない。俺も、知らないわけじゃないからな
へえそうかい？そりやさすがだ旦那

で、何で「こ」へ連れてきた？

だから言つたろ？俺たち凡人には、変わり田も、どういうカラクリでそんなことが起るの

かも、とんとわからねえんだ。だから「こ」へ持ち込んだのよ

旦那もお好きなんでしょ、鶴？

何でもこの赤い壁の中じや、死にかけの老人どもに亀や鶴の生き血をすり出せば、長生きや

せる実験をしてるつていうじゃねえか？

残念ながら秘密はすでに露見しています

役に立つんじやねえかな、この化け鶴女…安くしとくよ

ふむ…つまり銭か。銭のことは俺には何ともならねえな。ちょっと待つてう（未完）

ほら見ろ、俺の読みの通りだ。「こ」りやとんでもねえ銭が手に入るぜ、間違いない。思い切つ
て強行して正解だったよ

しかし、あのまま黙つて鶴女に紙を作らせておいても、それなりの安定収入にはなつてたわ
けだが

朽が違うよ、朽が。見てろよ。俺たち二人、どつかにお屋敷構えられるほどの銭が来るぜ

親友の与兵衛のことを思うと素直には喜べんな

何今更とつてつけたように親友だとか言つてんだ覗きオヤジ。あいつにとつても鶴女は身の
丈に合わねえ泡銭だ。のまま放つときや、運氣を吸い取られて、いざれ干からびんのが関
の山。あいつのことだ、朝日を覚ましや、ひとしきり焦りまくつて、怒りまくつて。拳句に
ひとり泣きじゃくつて、それでまたその日暮らしのまじめな百姓に戻るだけだらう。与兵衛
のためだ。あんな化け鶴に取りつかれちや、命がいくつあつても足りねえつて。そういうだろ、

先生 うんず、れうど

夜着姿の三女官が慌てて出でた、みやーの姿を見て「本当に鶴なの?」とか言つてキヤツキヤ騒いでいるあつけに取られてこねりとねりの姿をやつと認めて薄着の身を隠すようにして悲鳴

三女官

うんず

きやあー。

いやいや、違いますよ。れうどはなじです。レジつを運んでおいただけです。向いの

向いておじょつか。あの、錢もひつたりすぐには帰りますから

でなりが戻つてくる。草を持つている

三女官

うんず

あ、来た、用務員のおじさん、おじさん!

この女人たちから錢をもらへばよいのかな?

おもむろに持つていた草を一人の顔にあてがうと、うんず、でなりは氣絶する

みみなし

でなり

かぐや

でなり

みみなし

うねび

え?何?何?何してんの?

このまま帰っちゃまずいだろ

氣絶よね、それ殺してないよね

殺してねえよ。そんな草こつちもおつかなくて触れられねえわ

何やってんのよ、あんた

まあでも、どうせ大した錢なんて今は用意できないわけだしね

でなり

もし二三つらの語り通り、この女が本当に鶴と人を行き来する女なんだつたら、このことは絶対に外部に洩らすべきじゃない大事だ。そうじゃねえか？

かぐや

みみなし

でなり

三官女

うねび

でなり

みみなし

この二人は？

…殺すわけにもいかねえしな
本当にあんたは根が真面目だよ

回想終

かぐや

…というような経緯で、只今でなりは、その夜以来、鶴女の研究に没頭いたしておっまして、小屋から出でこないのです

三千代

不比等

文武

不比等三千代

文武

その鶴女とやら、見たい

不比等が笛を吹き、多くの役人が龜小屋を取り囲む
小屋の中ではみやこが髪を乱して汗を流しながら一心不乱に紙を書いている姿

でなりはその姿を絵師のように紙に墨で絵に書いていて、色んな角度、距離から書かれた絵が何枚も部屋中に干してあるでなりの絵に描かれたみやこは鶴と人の合わさつたような外見（折鶴に足がある鶴人）役人たちによって扉、壁が乱暴に破られる

でなり
みやこ
え?
ハアハア……あう、でなつせんのお友達?~じゃあ、田一杯おもてなしをしないことね

不比等の合図でなりを拘束。みやこもまた猿轡をかまされる（捕まるまでの過程で何度か鶴の姿が垣間見える）文武帝が入ってきて、みやこを見初める

…」それがその、そうなのかな？」
そのうで「ござります

(みやー)の轡をといむるよつに不比等につながし) わは?

(ニホン考え) …ふむ、

…に行かぬが！無神者 畏れ多くも帝におふせられぬべし！

申し訳ございません

全然そんな風に思えないね

はは

美しいね

いや、しかし帝、あくまで「やつは…

…ちょっと二人だけにしてくれる?

三千代

不比等

文武

不比等

文武

三千代

文武

三千代

文武

三千代

文武

三千代

帝とみやこを中に一人だけ残し、不比等と三千代は亀小屋を出る

屍樂人

普段はでなりが血まみれになつて亀をさばく、その暮園のボロ小屋で、つい若き帝はしづしどの鶴女と秘された時を過ぎして日が暮れる…

夕方になつた暮園の亀小屋の周りには、被験体の老人たちが集まつてきていた

やがて鶴女の手をとり亀小屋より姿を現した帝は、西田にそのお顔を赤く染めながら、居並ぶ者達にこゝへ宣せられた

我はこのみやこを后とする

屍樂人

文武

え？え？それはいや、それは危険でござります。一体何をしでかすものか…ねえ？

おまえたちは引け（兵士たちはでなり、三官女を連れて退出。不比等と三千代は動かない）

：二人と言つたが、四人おらぬか？

こゝに残るは影でござります。お気になさい

気になるな

しかし帝、こゝやつ、急にかみつくかもしれませんよ

だからってそれくらいで死ぬわけでもない。ちょっと痛いだけだろう

血が出るやもしれませんぞ

いい加減にせぬか

三千代、出よう

でも…

もはや幼き皇子様にはあらしゃうず

全
文武
三千代

文武
三千代

文武
三千代

お、お待ちください帝、「のものは普通の女子ではござりません普通の女子だ普通ではありませんーそれはさすがに許されませぬ。帝のお后様となられる者は、せめて普通に人でなければでは三千代、おまえは普通の女子なのか?めちやめちゃ普通です

いや普通に考えて普通じゃないよ、おまえは。悪い意味で言つてゐのではない。人はそれぞが個性あつて特別。普通なんていうものはない。それが普通というものだ。そういう意味でこのみやこも、どこにでもいて、ここにしかいられない普通の女子。だが我にとつてはかけがえのない:

得体の知れぬ、もののけです
(ぐつたりしていたのが動く)

:

これみんな、みかどさんのお友達?じゃあ目一杯おもてなしをしないとね
(拘束していた役人の手を振り切り) ありや実際、鶴だぞ!

いや普通の女子だ!

不比等さん?

帝に申し上げます。すべてはこの不比等の仕掛けた愚かな企みだったのでござります。かような浅薄な」まかしはすぐに破綻する。「」にいる女子みやこ、我がかつて若かりし頃、どこの端女に産ませたこの不比等の隠し子。世間の目を憚り、鶴女などとありもせぬ噂にくるんで、田舎の里に育て置いたが、巡り巡つてかような混乱の種となるとは、まいどに由の因果は奇々怪々

三
千
代

二〇

文武
屍女歌人

帝はみや」と共に去り、兵に拘束された三宮女とでなりが、不比等と三千代の前に残される

不比等

さて、三千代から君たちに何か大事な発表が、あるんだろう？

でなり
三宣女

十一

色々みんな思うところあるだろうけど、私なりに考えて決断しました。ちょっと唐突だよね。うん。でももう「」は役割を終えたのかなって、今日思いました。みなさん今まで本当にありがとうございました。この畠園での色々な思い出は、持統帝の面影と共に三千年一生涯忘れない。絶対に。あとそれから、それに伴つて、みなさんに、今後守つていただきたいことがあります。えっと…

不比等
三官女・でなり

■ ■ ■

鶴だと何だとかね。鶴バナ禁止。つるのつもダメ。つるのねもダメ、つるぬき算で。いい

かな？ わかってた？

5

てなり

い

いやわかる、そこは言つても、おまえたちは経緯を普通に考えたら、つい色々人に言いたくなるよな

三千代
でなり
それ絶対ダメ。約束です。守れるよね、それくらい。あなたたちだつたら
おい待ってくれ……

でなり
不比等
でも言つちやうよ
やつぱり難しいのかもしれないよ、三十代。さすがにね、何かの拍子で言つたりやうよね。俺
おい待つてくれ：

それ絶対ダメ。約束
おい待ってくれ……
やつぱり難しいのか
でも言っちゃうよ
言っちゃうかな、や

三千代　言つちやうかな、やつぱり
不比等　言つちやうよね。やつぱり
三千代　言つちやうか
不比等　だから死んでもうう

三官女がすかさず役人に斬られる

ひえつーひえーー
でなり

三千代
でなり
運が悪かつたね。成り行きつてのは本当に怖ろしいもんだよ
(斬られる寸前) お許しを!

不比等
屍樂人

待つた。忘れる所だった。そもそもみやこ様をここに連れてきた男どもがいたはずだろ？」「いつがどこぞに生かして置いたはずだ。おい、奴らどこにいる？」
でなりの証言により、土蔵の中から何もわからぬ、意識朦朧のうんずとそつじが引き出され

۲۷۸

「いづらも一緒に消えてもうう。待たせたな亀職人。さあやれ
……ちょっと待つて！待つて待つて！」

「うーん、どうも、

三千代
あんた…まさか…
（そうじを見て）
お母さん

屍女歌人

♪キーツ、キーキツキキツ、亀は何匹、鶴は何羽で鶴亀算
もろみ！

三
三
七

橘三千代の先の旦那はミニヌ王という王族のはしぐれ。一人の間にかつてできた男子の一人が、反抗期に家出して、野に下つて手相見に身をやつした、そつゞ、こと、県犬養諸兄（もんぬえ）

一九二九年九月

おまえも、元氣だつたかい？ もろ見え――

…あの、すいません、お母さん、お助けを！

誰？

惠友です

見返
さし

卷之二

この人はにわか仕立てです

どうしてなのだ?

もくえ 新しいお父さんよ

卷之三

卷之三

でなり どうがどうか！

不比等さん、お願ひ。この子にはもうこれ以上、やみしい思いをさせたくないの

どうかどうか！

やれやれ…そういうえば、あくる年に派遣が決まっている遣唐使船の入柱がちょうど足りてお

らぬ。この地を去り、大陸への船旅にて海神の怒りを鎮める礎になるというなら、見逃してやられることもない。それでは見逃された命も途端に風前の灯。およそ船団の半分が往復の海上に散る過酷なさだめの遣唐使であつたが、今の彼らに検討の余地はなかつた。三途の川がうんずの海で、果ては波間のもくうんずか：それでも「こ」で死ぬよりは…。

一同が退場していき、三宦女の遺体だけが残され、冷たい風が吹く

屍樂人

命寿ぐ暮園は死の匂い立つ不吉な廃墟となつていく

三宦女の遺体が蠢き、ゾンビのように立ちあがる

かぐや	…死はないねえ
うねび	…死ねないねえ
みみなし	…これって病よ
かぐや	死に至らぬ病…
うねび	職業病ね
みみなし	暮園の
かぐや	つまり何かが効いたんだろうねえ

与兵衛が走り込んでくる

「……」

(顔を見合わす)

女、もししくは鶴を

三官女
与兵衛

鶴、いやもしくは女房を……きっと誰かに「やられたんです！」知らぬ間に「どう」かへ消えたんです！

三官女
与兵衛

冷静になつてみると血まみれの三人の様子に驚くと兵衛
王宮では皇后となつたみやこに子が生まれる

屍樂人

やがてお后みやーに待理の皇子が生まれました。オビトと名付けられたその赤子は、文武帝の後を継ぐ皇太子となることを約束されていました。つまりこのままいくとあの腰ギラギラ男、藤原不比等がいすれ帝の祖父となるのです…といふがほゞなく都に噂が立ちます。皇后みやーの正体は藤原ではない、ところによつて人ではない、鶴のものだけであると

都の裏通りで二官女が巷に噂をばらまいている

不比等

どうじゅうじどだー事情を知らぬ者は皆、あの世もしくは海の果てのはばず。一体どーかうんどのよ
うな噂が湧いて出るの?

三
千
代

まさか生き残りのおまえが裏で糸引いてんじゃないだろうね、もろえ
滅相滅相、そんな危ない橋を渡るはずがないよ、お母さん。親友のうんずは、遣唐使船の舵

を切つて大陸を目指したわけだが、僕はお母さんのスネにかじりついて王宮での出世に人生の舵を切つた。もうあの頃のことは全部忘れたよ

三代

：不比等さん、私達大勢に恨まれてんだよ、何とか追い落とさうと誰もが私たちの首を狙つてるんだ

不比等

何を弱気になつてん？そんなじけた連中に決して負けるものか。何のためにおまえみたいな女と熟年夫婦になつた？一人して、天下をとるためじやないか？王族の出でもない我らが、実力でこの国を好き勝手に舵取りしてやるという破廉恥極まる野望のためじやないか？ああ、不比等さんのおうじうといふ！

三代

草むらで抱き合ひつ二人

もりえ
不比等

尻女歌人
屁樂人

ああお母さんやめてください…実の子供の日の前で！
しつかり見ておけ。これが権力といつもの濁つた劣情…
♪きーつ、きーきつときー

不比等もすぐに舵を切つた。帝すらも気づかぬうちに、お后みやーこを赤子のオビトから強引に引き離し、電光石火、誰の目も届かぬ山奥の隠れ座敷へと軟禁する

どういうことだ不比等！后はどうだ？みやこをどこに隠した？

隠したなどとは滅相な。本日未明、お后様は、重き心の病にて抜き差しならぬ発作状態に陥られ、周囲の者にも危険がおよぶほどのお荒れ様、薬師の見立てでは、しばしの期間、静かな場所でお一人にての心身の療養が必要であろうと

しばしとは、どのくらいだ？

さて…それは誰にもまだかには…やはりお后様は、普通の女子ではあらざれぬのやもしれませぬ

文武帝
不比等

屍樂人

もののけ封じと影で人は囁いた。不比等の強引な策はむしろ噂の真偽に耳田を集め。皇太子の母の素性は藤原氏か、もののけの鶴姫か…引き裂かれた帝の纖細な心身はやがて先細り、残りの人生を掠め取っていく…ついにまだ幼きオビトを残して、文武帝は若くしてお隠れになつた。まるで…

持統帝の星空の下の葬儀と全く同じような光景が繰り返される
三千代がまた大袈裟に泣いている
吉備によりかかつて憔悴しているアヘ

アヘ

…まるでこれは一幼き皇子ひとりを残して、賢く美しきお方が突如お隠れになられる…我が夫は幼きカルを残し、そのカルは幼きオビトを残し…

吉備

母上、お氣をお鎮めに

あなたはこれが悲しくないの吉備さん?あなたの父もあなたの兄も…あれほど輝かしく世に望まれて王となるべき者たちが、ああ、ことじとく…

葬儀に参列しているタケチ皇子の子、長屋王が傍にかけよる

水をどうぞ。少しは落ち着かれましよう

ありがとうござります、長屋王様

吉備皇女、母君のお気持ちは深くお察しいたします

この長屋王とは、文武や吉備と同様、偉大なるオオアマ大王の孫であつて持統帝とは繋がらない。かつて文武帝カルの対抗馬として最も警戒されたタケチ皇子を父とし、母はアヘの姉ミナベ。アヘにとつては甥に、文武、吉備には従弟にあたる

長屋 吉備
長屋 屍樂人

長屋

だが悲しみにばかり浸つてもいられますまい。即位となつた玉座をどうに委ねるべきか。
皇太子オビト様はまだあまりに幼く、しかもその出自に関する聞き捨てならぬ噂もある
：だからと云つて、そなたに帝の座が転がる」とは決してないゆえ

母上、急に何を…

そのようなこと考えたことも…

カルの玉座は、持統帝がその一生を濁りしむかるみに投じて死守されたのだ。今になつてタ
ケチの子に渡らうものなら、あの母上の粘りと執念は結局何であったのか？

今そのような話…

地から湧いて出た持統帝の靈と屍達が影となつてアヘに重なる

アヘ
アヘ・持統
長屋
アヘ
吉備
アヘ

私がやります…

母上？

亡き持統帝の決断にならい、まだ幼い孫のオビトが成人するまで、我こそ中継ぎの女帝とな
らん
これぞ太陽神アマテラスにも比すべき神々しさ、元明帝におわします

アヘが元明帝として即位する神妙な儀式

屍女歌人

♪春すぎて夏きにけらし白妙の衣干すてふ天の香具山

丘から馬に乗った水高皇女（民の姿）が元明の即位の光景を見ている

水高　　「れを呪いと言わすして

藤原京の北はるか離れた荒野にて威勢の良い掛け声が聞こえてくる
河に橋をかけようとする民達がいる

一人の僧、行基が指揮している

水高が民の一人に紛れて作業に加わっていて、一休みして一杯の水を飲む

おーい、伝助！伝助！おまえやー伝助！

：あーはい！わしひですか？

わしますかやあらへんがな。おまえ伝助なんやろ？伝助は他におらんやろ？

はい。そうでした

はいそうでしたやあらへんがな。ほんまに調子狂うなおまえだけは

まことに申し訳ございません行基様

だから様やめ様やめ、行基さんでええねと云つとるやろ。ほんでその大層なしゃべり方もほ

んまだ概やで自分

「ほんまだ概やで自分」？行基様それはいかなる意味の？

もうええねんええねん。それより肝心な用や。ほう、おまえを訪ねてきとるお方がおるね

わしですか？

だから君を……ひだかという者がおるかというから、そんな奴は知りませんなど云つたら、
おまえのこと指さしてな。ほう、あれ？」お待ちじや。ありやあ、わりと偉いお方ではない

水高　　行基　　水高　　行基　　水高　　行基　　水高　　行基　　水高　　行基　　水高　　行基

吉備と長屋王が待つている

氷高

か?
吉備…

伝助! よ、伝助!

よくここがわかつたわね

大変だったわよ。妙な名前名乗つてゐるし、男のなりなんてして
こんな遠くまで

それはこっちの台詞

何に来た?

心配したのよ。田を離すとすぐいなくなつちゃうから姉上は
放つといて。私は私のやりたいように生きるだけだから
橋を作つているんですね

お久しごりで「ござります長屋王様

あの行基のような者らには朝廷も目を光らせてます。何か見返りがあるわけでもないのに、
かなりの数の流民がああいう者らに付き従い、各地で開墾したり、橋を作つたり。何かの拍
子に一斉に暴徒にでも化せば、放つてはおけない勢力だ

見返りはありますよ

ほう

毎日の汗が確実に誰かの役に立ちますから
ところで姉上、私この度婚儀が整いましたのよ
あら

吉備
氷高

顔を衣で覆つたお忍びの元明帝が現れる

一九からの長屋王様と

…おめでたきこと。まさかわざわざそれを知らせに?

まあそれもあるけど…母上がこのところ、大いにお悩みで

氷高

帝?

いいところね。広々と風が渡つて、山々の緑が綺麗。気が晴れるわね
わざわざかようなところまで

やつぱりこういうところがあなたのいるべき場所なのね

確かに風光は明媚ですが、つまり何もない荒野です。でもこんな場所にも人の暮らしがある。

行基さんはそういう場所に赴いて人々を助ける。それが真の仏の道であると説かれます

…氷高さん、実の母である私が帝になる決心をしても、あなたは都を呪いの地だと拒んで寄り付かず、放浪をやめなかつた。ずっと考えていたんです。その呪いとは結局何なのか

何なのか、わかりましたか?

わかりません。でもわかつたことがある。それがわかるなら災い。わからないから呪いなのだ。だから相対しても無駄なこと、逃げるしかないのだと

母上

私は決めた。藤原京を捨て、都を遷します

…何もかも捨てねばなりませんよ。思い出もすべて。捨てられますか?

過去の呪いを断ち切つた新しき時代を用意せねばなりません。いまだ幼いオビトが一人前に

なる前に

母上…

氷高

元明 氷高 元明 氷高 元明 氷高 元明 氷高 元明 氷高

元明

氷高

元明
氷高

吉備
長屋王

氷高
元明

「……ならあなたもいるしね。いるよね、……なり。氷高さん、どうせならあなたがいるところがいいのよ。あなたに傍にいてもらいたいの。あの子たち共々、私が心から信じられる者たちに帝の私を支えてほしいの
つまり姉上を口説くためにわざわざ……まで来たわけよ
帝の御前においても憚らず、今や政の大半は藤原氏の意向で動かされつつある。皇太子オビト様の母の一族という立位置から、遠慮を外れた振る舞いも目立ち…
何となく察しはつきますが…」
だからあなたのような筋の通った人が王宮に必要なんです氷高さん。お願い。今こそ母を助けて。だからつてあなたがこちらへ歩み寄る必要はないのよ。あなたはそこを一步も動く必要はない。私達と都が、まるごとあなたへ寄せできます。あなたは揺るがぬ定點となつてここにいればいいから

動かない氷高の周りで展開される大規模な引っ越しの光景

そうして遷都が決まった

かぐや
うねび
みみなし
三体
長屋王

氷高皇女が一步も動かぬしるべとなつて、都がごつそり大和の北へお引越し
あおによし寧楽の地に平城京という、なんと立派な都が出現し
私たち生きる屍は、旧都の廢墟に置いて行かれ、忘れ去られた
しかしその前代未聞の遷都計画を積極的に陣頭指揮し、陰ではせんと君などと呼ばれたのが
あの右大臣不比等だ。その狙いは明らか。みやこ皇后と鶴にまつわる噂話は、旧都をまるごと

で、ふたわしき土地を探す放浪の旅をしてきました。あなたじゃないけどね。ああ……と
ころね。いつぞ……に新しい都を開こうかしら？

と葬り捨てる」と人々の記憶から消えていく…などとは、この長屋王がやせぬものか。この
引っ越しのじやくせーと、むしろ隠された真実を暴き出すまたとなつ機会である…
そう考えたのは、あの与兵衛も同じだった
あの時以来、彼は私たちと暮園に残つてすべての事情を知り、自生して繁る薬草で食いつな
ぎながら潜伏、みやこ奪還の機会を待ち続けていたのだ
引っ越しのじやくせーかの段階で必ず不比等と三千代は、みやこを軟禁していく隠し場所に近づく
はず。追跡尾行の果てに、ついに与兵衛はその場所を突き止めるが

与兵衛がみやこの軟禁場所に踏み込むとみやこは紙をすこしてくる
与兵衛と目が合つ

与兵衛

みやこ…

47

与兵衛
みやこ
与兵衛

みやこ、俺だ…与兵衛だ…忘れちまつたか?…俺だよ、おめえの亭主だよー。
…
おい、まさかおまえ、忘れちまつたか?

鋭い笛とともに警備兵に拘束される与兵衛
みやこが転じた一羽の鶴が、隙間ができる入り口から空へ飛んでいく

与兵衛

みやこおおー…

みやこ鶴はやうに飛んでいく

不意に木の上に現れる一人の男（大伴子虫）
網をかけみやこ鶴を生け捕りにする

一幕
幕終わり

**4
遷都**

廃墟となつた暮園にて三官女（三体）が明るく歌つ

三体 かぐや
うねび
みみなし
三体 かぐや

♪滴る心地 涙目の 皺も割れゆく 千歳雨 沁みて潤う 鶴千年亀万年
今やこの藤原京は時の彼方に忘れ去られた廃墟にござります
かつてその縁起を歌い語りし、生死の狭間に漂う屍たちの姿ももうありません
この地にはもう歌い語るべきものが何も残つていないです
ここに残りし者は、三体の生きる屍
そしてその老婆たちの世話を黙々とこなす、いつまでも若き新用務員

与兵衛が畠の世話などをしている

三体 ♪こゝは暮園 寿ぐ呪いの 道しるべ
♪鶴千年亀万年 人間五十年

長屋王邸
大伴子虫が鶴を抱えて控える

件の鶴を生け捕りました。長屋王殿下
でかした子虫！
(鶴を網から出す)

子虫
長屋
子虫

長屋

子虫

……」がま」とに先のお后なのが
……難しいことはわかりません。殿下の読み通り、不比等は軟禁したみやー様を寧楽の新都へ
移そうとしました。その動きから軟禁場所を突き止め、で、まあひと悶着ありますて、つま

人間の姿には？

一
原
刊

難し〜とばかりません

一体どうなつたら人の姿に変

：難しいことはわかりません

長屋

子虫

長屋

子虫

はい……鶴のしつかりした餌って何ですか？
ん？……米じゃないか？

米ですか？鶴に米ですか？

平城京での藤原家の隆盛ぶり
今が盛りの不比等の一族が豪勢に登場する

かぐや

うねび

唐の長安をそのまま模すなら、藤原京の如くおよそ正方形の区画になるはずだつた平城京には、東に瘤のように突き出た外京という一角があつた

みみなし

のぐ今の不比等の力の大きさを表している
すでに老いた不比等には母達いの四人の男子がある。武智麻呂、房前、宇合、麻呂。それぞれが有能な官吏として王宮でも力を伸ばし、一族の備えは盤石。その上、あの晩婚再婚の三千代との間にさらに娘が一人生まれていた。皇太子オビトと同年の生まれ、アスカ姫である鶴をどじそへとり逃がしたとはまことでござりますかうろたえるな。誰もお后様の姿を目にした者はおらぬ

もはや過去の出来事。これから下手に蒸し返さぬことだ。いずれ人々の記憶から消える心配なのはオビト皇太子ご本人です。生みの母への執着がそのうち生まれはせぬかと生まれてすぐに引き離したのだ。さようなものは生まれまい。それよりも…アスカが将来才ビト様の后になつてくれれば、すべての憂いは消えよう

三千代
不比等
そのアスカに子が授かれば
今度こそ、文句なく藤原の帝の誕生だ

もうえが年がだいぶ下のアスカと無邪気に遊んでいる

…そのためにも三千代、あの髭もじや息子な、あいつ、あんまりアスカに近づけるな

もうえ
はい、お母さん

不比等
三式
アスカ
復讐を悪した

アスカ
はい

あなたはオビト様と遊んでなさい

アスカ

はいー、オビト様あ遊びましょー

オビトが出てくる

オビト

よしアスカ、かくれんぼうだ！
きやあ！（走り回る一人）

アスカ
三千代
不比等
三千代
不比等

…本当に可愛いわ、二人とも、無邪氣で
あとも、あとも、
本当に…父君文武帝に生き写しね
あとも、まじつことなき皇太子殿下…

走り回っていたオビトが鶴の眠る一本足のポーズをして止まる

三千代
アスカ
え！
鶴だ！

また走り回るオビト

不比等

遊びに加わらうとするもひづ

もひづ
おいらも入れてくれよ兄弟ー！

「いら、もうえーやめなさいーあなたじくつだと思つしるの~

もろえ
すいません、お母さん

：気持ち悪いな（呼吸が荒い）

不比等
三千代

オビト〇
オビトは…八歳ーあ、おババ様！

アスカ
「帝」！

元明、氷高、吉備、長屋王、藤原四兄弟（お面）が華やかに登場する
オビトは依然走り回っている

元明
オビト〇
オビトさん、一いちじゅうへ座つて

あ、亀だ！

顔を透けた布で覆った三体がでかい亀を引きずつて御前に出る

かぐや

上された
でつかあ

オビト〇

うねび
みみなし

それを機に年号は亀の靈と逆さに書いて靈亀（れいき）と改められた
実はかつての暮園に放し飼いだった亀の一匹が、廃墟に残され野生化し、巨大に育つたもの
だった

オビト〇
元明

われも亀になる
これこれ、オビトさん、亀にはなれないよ

オビト〇

アスカ

オビト〇

元明

三千代

不比等

かぐや

みみなし

うねび

長屋

アスカ、手伝えー！鶴亀合体だ！

合点だ親分！

千年万年永久合体！

「うーうら

オビト様、アスカ、いい加減に…不比等さん？

…何やら…さつきから…気分がすぐれぬ…

三千代も不比等も気づもしかつた

自分たちが殺めた私たち三体のことを

これが私たち三体のささやかな復讐である」とを

これ、オビト様！

アスカともつれ合つてたオビトが顔を上げると顔が変わっている（持統帝の顔）

！（息を飲む）

いかがなされました帝？

母上だ！

オビトは…八歳！

おめでとうござります

♪きーー、きーきつときーー、亀は何匹、鶴は何羽で鶴亀算

オビト様を奥へ

ええ？もつと歌いたい（とか言いながらアスカ、三千代と出て行く）

三体も退出する。その後を苦しみながら追つていぐ不比等の姿

いつからあんなにそつくりだつけ?はじめからあんな顔だつたつけ?

そりやおババの帝とはみな血が一本で繋がつてゐるのです。どこか面影があつて当然の事
面影?面影つてものじやないよあれは!私にはわかる。氷高さん、ああ、これは何が起つて
てるんだ?

何も。おかしなことは何も起つていません。

母上が我らの後をどうまでもついてくる…不吉の沼が後の世を追いかけてくる

きっと我ら子孫を守つてくれてゐるのです

そうじやなし。縛つておられるのだ。持続帝はある暮園にて、そういう永遠を会得されたの

だ

母上?

…

かごめ かごめ 夜明けの晩に 鶴と亀が滑つた 後ろの正面 だあれ

元明が振り向くと戻つて来たオビトがいる

オビト

元明
(悲鳴とともに氣絶する)

母上!

姉上…

…母上は帝としてのお勤めをもう十分に果たされた。」」からはずつべつお休みしていただ
きましょう…

でもオビト様はまだあのよつに幼く…
仕方がない、誰かが中継ぎの中継ぎを…

氷高
吉備

氷高
吉備

氷高
元明

氷高
吉備

氷高
元明

吉備

氷高

長屋

氷高

吉備

元正帝の即位の式典を遠くの荒野から見守る行基

姉上がやるしかないのではないか?

待ちなさい

確かに。氷高様が女帝として後を継がれるのなら、諸侯も納得するでしょう
ちょっと、待つてよ…え?

母上も前々から、いざとなつたら、そのようにお考えだったのだうう
何言つてんだか、氷高だか、何だか…

行基

まもなく元明帝は退位され、オビト皇太子が成人するまでの中継ぎの女帝の役目を、最も信
頼する娘、氷高皇后に託された

元明

あなたのような人が王宮に必要なです、氷高さん。お願い。今こそあなたが中心になつて。
あなたが歩み寄る必要はない。そこを一步も動く必要はない。国が、民が、まるごとあなた
へ寄せてくる。あなたは搖るがぬ定點となつてこゝにいればいい。それがあるべき帝という
ものです

行基

一人自由を求めて逃げおおせたはずの寧楽の荒野にて、ついに追手の影に追いつかれ、もは
や逃げることかなわぬ状況で彼女は、生涯男を知ることなく、夫も子ももたぬ初めての女帝、
元正帝として即位することになる。およそ彼女が望まぬ形での、一人の女としてはまことに
過酷な成り行きであった

三体を追つてきた、弱つてゐる不比等

不比等

おまえら、暮園にいた女たちだな!

三体

不比等

え…

どうも匂うと思っていたんだ。考えてみれば」の匂いはかつて嗅いだことがある、そうだ、ガキの頃に見た合戦の後の戦場の匂いだ。ああ、吐き気がする。おまえたち、殺したはずだ。何で生きてる？

さあ実際、生きているのか、死んでるのか

生きてるとして何のために？

うねび

かぐや

みみなし

不比等

かぐや

うねび

みみなし

三体

不比等

三体

不比等

三体

不比等

三体

不比等

三体

不比等

三体

不比等

大袈裟に泣いてる三千代とそれを慰めるもうえの姿

面倒くたい問答に付き合つての余裕はないんだ。おまえたち、斬られても死ななかつた？

まあそれは何と言いますか

私たちにもさだかには

強いて言うなら

職業病です

（斬りかかる）

きやあ！

つまりあの暮園じゃ、命長いえの技の研究が、ある程度結果を…う…（呼吸が苦しい）どうしましたか？

うねび・みみなし だいぶ具合が悪そうね

俺を暮園へ連れて行け。そしてその技を我に施せ…ウ…（苦しがれ）

それからしばらくして、藤原不比等さんはこの世を去りました

しばらくの間ね

しばらーへー・しばらーへー・しばらーへー…

時が経ち、元明帝は余命わずかとなり、晩年の持統帝のように何人にも助けられて動く

元明

ある時、佐保川を見下ろす長屋王の別邸で宴が催され、私は元正帝とともに久しぶりに吉備の元を訪れた。亡くなつた不比等に代わり、帝が長屋王を新たな右大臣に指名した祝いであった。長屋王と吉備の間には四人の男子が次々生まれて、いつもこの家族は賑やかで騒々しい。王宮の主な人々、もちろん不比等生き藤原氏を担う若き四兄弟も招かれていたが、こちらは何とも性質が暗い。夫を失くし老いてなお閑達な三千代さんの馬鹿笑いだけが屋敷中に響き渡っていた。そしてようやく子供時代を抜け出したつある年になつたオビトと、自ずとその妻に収まつた幼馴染、不比等の娘アスカ姫は、仲がよいやら悪いやら…。

オビト

僕は今からこの幸せな光景を歌にして披露しようと思うが、アスカは間違つても僕に続こうなどと思うなよ

え、どうして?

当たり前だろ。あまりにも歌が下手な君が歌つては座がしらけやるあまり、逆に皆の目を引き、せつかくの僕の歌が誰の印象にも残らなくなるのは目に見えてるからじゃないか

私、そんなに歌が下手かしら?

下手下手下手へちまの下手さ

え? 何それ? それどこで覚えた? ゼひ知りたい、絶対知りたい

どうでもいいだろ、そんなこと

どうでもいいわね。そんなこと。でもオビトさん、あなたもいざれ帝になるお方なんだから、一つだけ言っておくわね

何だよ急に?

あなたにとつてどうでもいいことでも、相手にとつてはどうでもよくないことが、多々、あるのよ。多々! 多々! たたたたた! (つねる)

オビト
アスカ

アスカ
オビト

アスカ
オビト
アスカ
オビト

オビト

アスカ

元明

元正

元明

あいたたたたたた！痛い痛いよアスカ！何するんだよ？大人教育です。特に必要もなく人を簡単に傷つけるような人は帝になつてはいけません！（通りがかり）いつも仲がいいのね、うらやましい

さあ母上、あちらで吉備が待っています

帝の働きぶりにはまことに頭が下がります。あなたに任せて本当によかつた。これでオビト

があと少し年を重ねてくれれば…

オビト、準備はすでに整っています

すいません、お邪魔いたしました

何だよ！

子供は邪魔なのよ。空気を読みなさい
いいのよ、アスカさん。しつかりした嫁をもういましたね。さすが不比等さんと三千代さん

の子

さあ、たまには親子三人静かに語りいましょう（二人歩み去る）
ほら見ろ。こんなことじや、いくつになつてもガキ扱い…

四人の藤原兄弟（お面）が横切る
皆がアスカの耳元で何事か囁いて去る

オビト

アスカ

オビト

三千代

オビト

何？何？何だつて？

早く子供を作れってさ

（赤面）

かつこ赤面？

うるさいーきいいいいつー（鶴のポーズでストップする）

アスカ
三千代

鶴だ!
おおおおええー!

そのポーズを見て吐く二千代

長屋王別邸奥の庭園

元明、元正、吉備、長屋王がいる

庭には一匹の鶴がいて、一本足で縄のようにして止まっている

元明 長屋 元明 長屋 元明 長屋 元明

掃き溜めに…鶴…
あれはどうも寝ている状態みたいですが

まだわからないことが多いんですが

あ、動いた…飛んで行かないのね

足に細い糸を結んであり、鶴司がその一方の端を自らの足首に結んでいます

…これがいる人なの?

ここへ来てから一度も人の姿に変わったことはありませんが。今藤原家の誰にもこのことは知られていません。さうに調査がはつきりしたというで、切り札として使えないかと考えています

切れ札?

姉上、母上、もののけ鶴の血が混じつた疑いのある者を帝に奉ぬどころかとあります
でしょうか?

しかもそれが藤原一門による偽装工作によって隠蔽されたところ状況証拠は揃つてゐる

長屋 元正 吉備 元正

元明

やめておきなさい。私も帝も、あくまで中継ぎの女帝よ。何もかも、オビトに筋を繋ぐためだよ。母上持続帝がカルに筋を繋いだように。私たちは役目を果たし、筋を通すまで

……あまり極端なことをしては、藤原家の方々の恨みを買います。それだけが心配です

若き頃の帝のかつての口癖を私は覚えています。「私は常に私のことよりも君のこと」。恐

れながら今、姉上はいぬへども「おおにござりますか？」

吉備！お願い！

帝とはあらへき筋を通すお方でなくてはいけないのではないか？

ね」とがでせたんだ。だから水戸を賣めないでやつて。」の所

それは」の私のせいなんだから

母上、もう帰りましょう

如^シに^シ方^シ無^シ口^シに^シ

元明帝が倒れる

母上！

元正は持っていた筒の水を元明に飲まそうとする

吉備

姉上?

滝の音が聞こえる

元正

元明

元正

元明

元明は死んでいる

母上、美濃の国多度山の滝の水でござります。ある木一の若者が、老いた父に心ゆくまで酒を飲ませてやりたいと願つて夢叶つたといつ、甘く匂い立つ奇跡の水。老いを養い、病を癒し、若き命の輝きを取り戻す養老の水で：

氷高さん、聞いて。私わかるのよ、もう長くないのよ
はいー終わり。愚痴撲滅。体によくありませんよ。楽しみなことだけ考えましょう

氷高さん、私が死んでもあの子のことを…
さあ母上、まずは養老の水を…

うねび
みみなし
かぐや
聖武

元明帝アヘは養老五年の冬にその一生を終えました

ほどなく皇太子オビトが成人、元正帝は退位して後見役の上皇となり

ここに聖武帝オビトと光明子」とアスカ夫妻による約束の御世がはじまったのです
あ、亀だ！

三体が前より大きい亀を献上する

かぐや

私たち三体はそのためたき即位を寿ぎ、密林化がさらに進んだ暮園廃墟で、怪獣規模で野生

の巨大化を遂げた亀を再びいたずらに献上。しかしそれを布難がつて年号は神の亀と書いて
神龜（じんき）とあらためた
アスカ、手伝え！鶴亀合体だ！

合点です

千年万年永久合体！鶴！（無邪氣さが消えていやらしい戯れになつてゐる）
亀！

かんちょう鶴！
つてこひこひ

ははははは、ばうばうーばうばうー

老いた三千代は子供っぽい一人を心配し、鹿の角を懸命に削りはじめた

もろえ
三千代
もろえ
三千代
もろえ
三千代
光明
三千代

お母さん、何を煎じているの？

これは鹿の角だよ

そんなものも長寿の薬になるのかい？

長寿つつうかな、一族の長寿つつうかな、つまりこれは男が飲む薬だ

どれどれお母さん

おまえはいいんだ。おまえにやる分はない

どれどれお母さん

だから女が飲んでもしようがないんだよアスカ

帝が現れる

聖武
三代

みかど

これは帝に…
三千代さん、特に朕にはいりません。もうえせんに与えてください
でも帝…

聖武
三代

そんな薬なくとも、朕は元氣です。

信じられないわ。だつてあなたたち、なかなかお子が…

光明
三代

そ・れ・が・ね
え?え?

聖武
三代

朕は元氣です

仮面の藤原四兄弟が祝いの舞を踊る
三千代は泣いている

かぐや
うねび
みみなし
かぐや
うねび
三体
みみなし

生まれたのはめでたくもお世継ぎの男の子でした
早速皇太子とされた、藤原氏悲願のその皇子の名はモトイ

その皇子の名はモトイ
モトイ?

モトイ皇子!

わずか一年の短い生涯でした

ついでに三千代

同じように泣く光明皇后
ショックのあまりしゃがみこんでしまう聖武帝

三千代

大丈夫ですか？帝？オビト？

鶴のポーズで固まってしまう聖武

聖武

：朕は元氣です

群衆の噂話が聖武を覆う

群衆

♪鶴だ、鶴だ。鶴人だ、鶴人が都に禍運びよる

黒いマントをかぶつて大きな鎌を持った死神のような男、東人が都大路をゆっくりと王宮へ向かう

元正

その日、傷心の帝を見舞った後、私は長屋王邸を訪ねて、妹吉備としばし話し、その後都大路を馬で下る帰り道に、その黒衣の放浪者とすれ違いました。その日吉備が私に話したことには、もちろん皇太子のことでした

吉備

切り札の皇太子を失つて、藤原一族は光明子アスカの正式な皇后への立后を画策しています。つまり姉上、いざとなつたらその光明皇后が聖武帝の後を担う…あの不比等と三千代の子がですよ

当時、政の現場では、不比等な藤原氏の力を、右大臣長屋王の勢いが上回りつつあります。吉備はモトイ皇子に変わる皇太子候補に、自らの生んだ長屋王の四人の男子の名を挙げ

たのです。確かに彼らは聖武帝と同じ私の甥、持統女帝の系譜として申し分ない資格を有していました

今こそ正しき筋に王座を取り戻すまたとない機会ではありませんか

長屋王夫妻がそんなことを考えていいことは、藤原側にもすでに知っていました

鶴のポーズの聖武を囲む藤原一族の中心で三千代が何かを画策している

そこへ現れる黒衣の東人

吉備
元正

5 鶴毒

聖武はゆっくりと鶴のポーズを解く

中臣東人と申します

…これぱつと見、絶対悪の使者ではないか？縁起の悪い先づれではないか？

申し上げます

知らん知らん。もうしゃべる前から不愉快なんだから。しゃべんないで、匂うから。ほら（藤原の四兄弟は本当に無口だよ。無駄な事は一切しゃべらないし、ちよつとしたくらいでは表情一つ変えないよ。だからたまに誰が誰かわからなくなるよね。はい武智麻呂（本人が手を擧げる）、房前（本人が手を擧げる）、じゃあこっちが宇合で麻呂ね（二人は首をかしげる）あ、逆か！ほらね。無駄口叩かなくても大抵のことは事足りるんだ。もうさ、ややこしいのは削いで行こうよ。物事単純に考えようよ。はい、何？手短にモトイ皇子様の死は呪詛が原因でございました（一礼して去ろうとする）

え？え？おい、待て待て！待てよ！呪詛って何だよ？

つまり皇子様の死を呪いの儀式で密かに引き寄せた者がいたのです（去ろうとする）おい、待て待て待て！まだ終わってない、終わってないだろ、明らかに。肝心なところをまだ言つてないだろ

それは誰かということですよね。しかし帝、よく考えてみてください。答えは自ずと明らかではないですか？つまりそれはモトイ皇子が死んで一番得をする人物…

その探偵みたいなのいらん！削げ削げ！それこそ削いで速攻で即答しろ！誰の仕業だ？

右大臣長屋王様です

東人 聖武

東人 聖武 東人 聖武

東人 聖武 東人 聖武

なぜか花瓶の花を持つて近づいていた三千代と光明子が花瓶を落として割る
驚いた聖武が振り向くと無表情だった藤原四兄弟の顔（お面）が歌舞伎みたいな怒髪天の表情になつてゐる
(大げさで芝居がかつてゐることが、この東人が藤原一族の仕込みであることを示唆する)

聖武
行基

♪キーツ、キーキツキキ

その日、「」の行基は平城京の中心を縦に貫く下つ道と呼ばれる都大路を王宮へ向けて一人歩きとりました。伝助、いやいや、今や上皇となられて静かに身を引かれた先の元正帝との縁を頼り、病の貧者達を治療するための施薬院を建造するため、王宮よりの支援をお願いするつもりでした。すると馬にまたがり弓を携えた逞しい貴人たちが、朱雀門より勢いよく飛び出してきて、後ろにたくさんの兵を従えて東へ、佐保川沿いに北上するのが見えました。一体何があつたかと追いかける野次馬の群れについて行くと、その兵がすでに長屋王別邸を隙間もなく取り囲み封鎖している。やがて夕方頃になつて、輿に乗つた何人かの正装の貴人たちが到着し、門より邸内へ入つていく…しばしの間何も変化はなく、完全に日も落ちて、邸を囲む兵たちの炊ぐ篝火だけがチラチラと跳ねている。どれくらいたつたか。ようやく貴人たちが邸内から出てきて輿に乗つて去るに合わせて、兵たちの囲みが徐々に解けていく…中で何が起こつてゐるのかはわからなかつた。それは後日、耳にした真偽不明瞭な噂で想像することしかできない。風が出てきた。最後に残された何人かの兵たちが篝火からとつた火を邸内に投げ込みはじめた。するとたちまちその火が風に煽られ、広大な邸を炎が包んでいく。邸からは何人もの使用人たちがあぶり出される様に外へ逃げ出た。だがその中に長屋王一家の姿はなかつた。彼らは「」の時点で恐ろしくすでに全員死んでいたのだ

行基の述懐の間、子虫がみやこ鶴（ペベット）を抱えて狭い隠し部屋に隠れていら様子
藤原兄弟の詰問の声が遠くかすかに聞こえている

…その罪万死に値するが、せめてもの情、潔く口の身を
かような稚拙な筋書きに困する我ではない
恥を知るがいい、これが藤原の陰謀であることは…
「ちらも力づくで」というのはあまりに後味が悪い
貴様らの後味の良し悪しなど…

ここにはその後味を消す薬草が「ジギ」します
わからん奥様やお子様たちの分も
無礼なり！（陶器の割れる音）

思わず飛び出してこゝとすゐ子虫を、こゝのまにか人間の姿になつたみやこが止めるつとある
驚いて逃げようとした子虫の足がみやこと紐で結ばれている

子虫 まやか…（叫び声になつた口をみやこが塞ぐ）

ドタドタの音があり、じぱりへって人々が退出した気配とともに静寂

子虫 お口様…（紐をほどく）まこりましよう

周りを気にしながら静寂の邸を進む一人
扉を開けるとそこには凄惨な景色が広がっている
長屋主と吉備、その四人の皇子が毒殺に追い込まれた残酷な景色
暮園に生えていた薬草が垣間見える

声 長屋 吉備 声 長屋 声 長屋 声 長屋

（音）

腰を抜かして頭も出ない子虫
みやー」はその景色の真ん中に静かに立ち、鶴のポーズで止まぬ

みやー」 …やいいいつ

子虫にはそれが掃きだめに立つ鶴が何かを祈つている象徴的一瞬に思ひ入る
やがて炎が屋敷を包む
炎の跳ねる音に我に返った子虫は、みやーの体を抱えて火に巻かれた邸から脱出を図る
途中からみやーは鶴（ペペット）、あるいは折鶴の姿になつて子虫に抱えられてこの
気が付けば子虫は折鶴に乗つて空を飛んでいる
見下ろす邸が炎とともに崩れ落ちる

行基はその光景を見ながら手を合わせお経を唱え始め
人々がその後ろに続く
呆然と現れた元正上皇もまた手を合わせ経を唱える

行基

ぶつせつまーかーはんにゃーはーりーみーたーしーとゼよつ
かんじーぎーぽーせーぎーうじんはんにゃーはーりーみーたー
じーしょうかんじーうんかいくーじーじつたじくーやく
しゃーかーしーせーかーじーべーひーうーじーしおじかーべゼー

後日の暮園
触れると危ない薬草の世話を慎重にしてこぬと兵衛

三千代が現れる

精が出るね

おお、この前のばっちゃんか。どうだった？あれは効いたか？

ああ、よく効いたよ

そいつはよかつた。だがんまり人に言うなよ。別に商売でやってるわけでもねえんだから。

まあ、たまたまばっちゃんが困ってたから、特別分けてやつただけでよ

わかつてるよ：役に立つてよかつたよ

こういう危なつかしい薬草を欲しがる連中っていうのは必ずいるからな。本当に、ひとつ間違つたら人が死ぬから

わかってるよ

：人に使つたんじゃねえだろうな

猪だよ

そうか。まあ熊だつてイチコロだ

はい（銭を渡す）

そりや前にもらつただろ

うまくいったからね。その分だ

銭なんてどうせいらねえんだ。使う当てもねえし

また頼むよ

は？どういうことだ？

きっとあんた。これが天職だ

何言ってんだ

ひとつ間違えば口の命も危なかろうが

三千代 与兵衛
三千代 与兵衛

与兵衛

本当に効く薬草っていうのはそういうもんでな。ギリギリのところで毒にも薬にもなる。そもそもこれは俺が撒いた種じゃない。まあ、ついでというか。たまたまここへ来る」となつて。いろいろあって、もう他にやる」ともなくなつてな。畑耕して、花や草の世話をするのは性に合うんだ。何も考えずに時が過ぎていぐ…おい！（なぜか草の香を嗅いで倒れる）

おい、大丈夫か？何やってんだー！おい、ばっちゃん、しつかりしる！
三千代 与兵衛

崩れ落ちた三千代の体から草が生えてきて花が咲く

かぐや

我らが上司にして時代の寵児、橘三千代の肉体は崩れ落ち、枯れた土壤と同化して、一滴の大地の潤いとなり果てた

三体

♪ここは暮園 寿ぐ呪いの 道しるべ

王宮

うねび

その四年後、長期間にわたる遣唐使の役目を終え、渦巻く海峡を九死に一生の寸前でかわしきり、大陸より帰国された強運の面々が都を訪れた中でも唐の皇帝にその帰国を惜しまれたともいう三人の天才が、王宮に招待され聖武帝への謁見を許された

かぐや

第一の天才は真備といい、難解な専門言語を操り、数ある学問に深く通じて、人知の及ばぬ未来を見通す力を持つと巷の噂デステイネイションを目指す。それが我々に課されたミッションだどこかで見たことある顔。その後のあいつ

真備
うねび

もひえ

真備

もうえ・
真備

みみなし

真備

光明

聖武

真備

玄昉

き、君は、うんず！

さうだそうだそうだ…もうじ先生か！

♪懐かしき一あーの頃

と、ひしと抱き合つ腐れ縁

「うしも」「う言つてます。人の生せると書いてじんせこと読む

ん？子牛？子牛がしゃべんの？

しゃべるんじゃないの？唐の国の子牛なんだもの

そんなこと言つてないだろ孔子は

さすがです。正解です。そんなことは言つてない。じゃあ逆に孔子は何と言つたか、帝？

何とつて、孔子は色々言つただろうから「た
そーー色々言つたんです。まさにーそれをひとつひとつ、聞かないといけないんです、色々
と言つのであればねーそ�でしょ帝？そ�じやなことわからないんです一つも。曰を聞いて
一つを知るんです

逆じゃない？一つを聞いて…

逆もまた？

うん

逆もまた？

…しきり？

おしかり？

おしかりー（平伏）

何の話だつけ？

てやつ！（かつてのなりの氣合の声）

うねび

三体

もうえ

玄昉

聖武
玄昉

第二の天才は玄昉という荒法師、いや
でなり！

用務員のおじさん！

玄昉です！恥ずかしながらまたこの地へ帰つてまいりました。帝、「めんなさい、えつと帝、
帝はどなたですか？」

朕だが

じゃあ朕さん！朕さんね、私も真備君も人柱だつたんですよ。人柱つて知つてますか？海の
神に捧げる生贊として、船の舳先に括りつけられるんです。裸でです。高い波が来たら真つ
先に人柱が全身で受け止めるんです。ひつきりなしに波が顔まで来て息もできません。ずつ
と溺れてるようなもんです。運が悪ければ簡単に死にます。実際だいたいの人柱は航海の途
中で死にます。死んだら別のヤツがまた舳先に括りつけられる。船が転覆したらどうなると
思いますか？もちろん死にます！括られてるから逃げられない！誰も人柱なんて助けな
い！いずれにせよ死ぬんです！

（思い出して号泣している）

だから無事に唐の国に生きてたどり着いた時、ありがたくてね。もうありがたくてありがた
くて、ひたすら仏に感謝ですよ。一心不乱に感謝の思いで仏の道に仕えましたよ。何が言い
たいかと申しますとね、朕さん、玄昉は、胸いっぱいです！（ひと踊り。真備も加わる）
こうしてリバイバルの二人にひき続き、第三の天才が聖武帝の前に姿を現した

：（フードで顔が見えない）

おい、どうした？第三の天才よ、おまえは唐の国で何を学んできたのだ？この国に何をもたら
してくれるのだ？

！（懐から何かを出でたとしたように見えたる）
ひやー曲者か！

真備

玄昉

みみなし
てんさい

光明

光明
てんさい

藤原四兄弟がとびかかっておさえようとすると、何かを見て驚いて離れる

フードが取れた顔は疱瘡の仮面顔

懐から出た紙に「天災」と書いてあり、天災はそのまま倒れる

一同咄嗟に口を布でおさえて外に散つて行こうとするが

四兄弟はそれぞれの場所で疱瘡の仮面に変わつて苦しんで倒れていく

かぐや
うねび

遣唐使が大陸から運んだ災い。恐るべき疫病である疱瘡が都で猛威をふるい、王宮内を直撃、
役人たちがバタバタと倒れていく中、ほんの数ヶ月の間に、あの藤原の四兄弟全員が感染、
あつという間に帰らぬ人となつたのです

四人全員だよ？一斉だよ。そんなことある？そんなことある？

取り乱されますな。あの四人だけではない。大勢が死んだのです。仕方ないのです、疫病は人
を選びませぬ
いやいやいや、ないよ。ない。こんなこと普通ないよ

高笑いする長屋王と吉備と子供たちの幻靈が現れる

聖武
長屋王
三体
ハハハハハ
ハハハハハ
ハハハハハ

元正上皇がその幻影の中に立っている

聖武
もりえ

これは…上皇様…

元正

聖武

元正

聖武

元正

聖武

もろえ

聖武

もろえ

聖武

光明

アベ皇女が入つて来る

ひやあ！（幻影は消える）

大事なのはここから帝が、何を語られるかです。あなたが搖るがぬ標となつてはじめて、そ

の光を頼りに、民が、国があなたに己を寄せてくるのですから

無理だ…

それが帝たるもの

無理だ。朕は…何を話せばいいのか、何をすればいいのか、全然わからない。こんな時、朕はどうすればいいだらう、もろえ？

とりあえず私なら、寝ますかね？

寝るか。そうだな。ちょっと寝よう。寝れるかな？寝れないかもしれないが…

起きてずっと田をつむつてるだけでも、寝てると同じ効果があるらしいですよ

そうか、もろえ。そうしよう。起きてずっと田をつむつていよう。少しは楽になるかもしね（もろえに手を引かれ退場）

みつともないわ。みつともない。甘やかされて育つたからこうなんの

そんなに責めないであげて母上。誰だつて、こんな状況には逃げ出したくなる。父上はああ見えて、一番物事の本質が見えている方です

聖武帝夫妻がモトイ皇子を失った頃に、一人にはもう一人の皇女が生まれていた。今や健やかに育つたアベ皇女は若くしてすでに威風漂う、王宮に咲いた華…光明皇后は、このアベ皇女を、ヒメとしては異例の皇太子に据えようと考へていたのだが、しかし…

真備、玄昉、勉強の時間です！

アベ

元正

アベ

真備・玄昉

ははつ

おかえりなさい遣唐使たち。今日は唐の国のどんなことを教えてくれるところの? アベ皇女。私は唐国の大富ににおけるリスクマネージメントについて、そのコンセプトに流れるテーマを掘り起にして、あらためて埋め直してみようかと思つてます

アベ
真備
玄昉

アベ

私は唐の国で見た巨大な仏像、盧舍那仏というものが今も忘れられません。その思い出話を皇女にお聞かせしようと思っています

はい

この子にも鶴の毒が流れている…

アベが鶴のポーズ

真備

アベ
アベ

真備
・真備
・真備
・玄昉

…皇女、そのリアクション、いつもながら謎です

アベ

アベ
アベ

アベ
・真備
・真備
・玄昉

面白いね。面白い。いろんなことを教えて頂戴。どんなに中身がない話でも、知つた二つちやない旅の思い出話でも

元正

この子は希望か、絶望か…

6 リバイバル・サバイバル

夏の夕方の暮園 ヒグラシが鳴いている

葉っぱをあおぐ三体

汗を流して薬草の世話をすむ与兵衛

一人の役人（お面）が「そ」そやつてきて与兵衛と何やら話す

与兵衛は草を選び、役人に渡すと、役人は紙でそれを慎重に包み、与兵衛に錢を渡して去る

かぐや よく売れるね

与兵衛 は？

うねび すっかりお得意さんだ

みみなし ありやさしずめ、皇后さまのお使いだろ？

かぐや そりやさぞかし高く売れたことだらう

与兵衛 うねび うるさいぞ

みみなし 皇后様は最近とみに、うちの草が「入用に見える。あのの方の…

三体 笑顔が恐ろしや

かぐや いやそれがな、帝がどうも、最近、それなりにお元気を取り戻されたようで

うねび さりとてあの、笑顔が恐ろしやには近づかぬ

かぐや 代わりにあちこちの女にお手付きをな

みみなし 結果あちこちでお子が生まれてしまつたとか

かぐや その過ちを一つづつ一つづつ皇后さまが拭つてなさるのよ

うねび ついこないだは健康な男子も生まれたつていうしね

みみなし

三体

うねび

与兵衛

三体

与兵衛

三体

与兵衛

三体

与兵衛

三体

与兵衛

みみなし

かぐや

うねび

みみなし

三体

与兵衛

みみなし

かぐや

うねび

みみなし

三体

与兵衛

かぐや

うねび

与兵衛

それは困る。皇太子はアベ皇女と、とうとう力ずくで決めたわけだし
やだやだ
でもそのおかげで私たちの育てた畠園の薬草が闇でさばけて
俺が育てたんだよ
ああ、闇バイト闇バイト
いい加減にしろババアども、ああ、蟬よりつるせえ（行きかけ）
どこ行くの？
市場に行くてる
何買うの？
何でもいいだろ
買うものなんてないくせに
欲しいものも何もない
だって必要なものは全部ここにあるから
そもそも生きる屍には何も必要ないし
ねえ、何買うの？
あんまり暑いから女でも買いに行くんだよ。おまえらと違つて若くてこきのいい女をな
やだ、嘘だ、嫌だ、何でそんな嘘つくるの？
だからうるせえよ、ほっとしてくれ
女なんか死んでも買わないくせに
勝手に決めるな
だつて
心に決めた人がいるんだもんね
おまえらまとめて消えろ。とつとあの世へいっちまえ

三体
与兵衛
それが無理なの、
つたく…（暮園を出て歩き出す）

旧都藤原京近くの市場は人でにぎわっている
歩いているうちに与兵衛はみやこと似た女とすれ違った気がして振り返る
与兵衛の目の前の果物屋台の店主が屍女歌人

屍女歌人 ♪きーつ、きーきつききー
人々1 屍女歌人の歌声だ！
人々2 何年ぶりに聞くその歌声はいたせかも老いやうばえぬ！
人々3 死してなお歌声響き
人々4 生きてなおその音色にこそ死をぞ知る
屍女歌人 亀は何匹、鶴は何羽で鶴亀算

瞬間見失い、人混みをかき分け、慌ててみやこを追いかけ探す与兵衛
見物人の輪ができていてその真ん中で汗だくの二人の男が碁を打っている
子虫と東人である
みやこは子虫のそばについて、汗をかいり果物を食べさせたり甲斐甲斐しく働く女房のようである

東人 東人 東人
子虫 子虫 子虫
なかなかの腕前ですね
いや…まだ習い立ての、ほんの見習いですから
それにしては、一分の隙もないことはこのことだ。あなたタダ者ではないな
まあ、難しいことはわかりません

先ほどの果物屋（屍女歌人）に聞く与兵衛

与兵衛

果物屋

あの一人は？

もう朝からやつてんのよ。なかなか終わらないもんだから、周りが白熱ってきて酒飲んで賭けし始めてさ。初めて見る顔さ。賞金につられて飛び入りで手上げてそれぞれ名乗り出た見知らぬ同士らしいけど

この辺りの方ですか？

うんまあ

最近この旧都の周りには、都落ちしてこいつそり身を隠す連中が集まるんだとか

へえ

その口ですか？

失敬な。むしろこつちは手柄を挙げて大出世した口だ
ほう。どんな手柄をあげたんですか？

まあそれはね。そんな大した話じゃないんだが
どんな話なんですか？

もう忘れたよ

思い出してくださいよ

いや、もうだいぶ経ったしね
さすがに覚えてるでしょ

え？…何の話をしてるんだ？

何の話？さすがにわかるだろ、中臣東人
なぜ私の名を？

東人 子虫 東人 子虫

子虫

おまえの嘘の姫生口で、長屋王様は殺されたのだ

子虫は剣で東人を斬り殺す

みやこ

与兵衛

みやこ

屍女歌人

子虫

与兵衛

声（真備）

さあ、おまえさん、早く逃げなきゃ！
(進み出で) みやこ...
え？ (動きが止まる)

ふき一つ、きーキつききー

何だ？どうした？...誰なんだ？
...変わんねえなあ

おまえもな

セツキ与兵衛から草を買つたお面の役人が兵を率いて現れ、子虫を斬り捨てる

みやこ 子虫さん！

駆け寄りうつとしたみやこ、与兵衛が拘束される

光明皇后、アベ、そして真備、諸兄、玄昉が現れる
みやこに近づく玄昉

玄昉
アベ
光明

...変わんねえなあ
この人が？ そうなの?
私だって初めて見るのよ

諸兄

真備

諸兄・真備

与兵衛

本当に…氣持ち悪いほど昔のまんまじやないか
まさかおめえに「」で会えるとはな!

♪なつゝかしきゝわゝがとゝもゝ
何が友だ一人さういの鬼畜どもめ地獄へ落ちろーおまえらのせいで、みやーは、どんなに辛
い目に…

玄昉

辛いなんてこれっぽっちも思っちゃいない。逆に幸せだともな。所詮、鶴だ。ただ生きるた
めに精一杯その場をしのいで生きてるだけだ。辛かつたり幸福だつたりするのは周りにいる
人間だけだ
なかなか鶴には変わらないのね。警戒してるので?

みやーは葛籠の中に詰め込まれる

与兵衛

おい、やめうーみやーをどうするつもりだー

暴れた与兵衛は捕らえられ、お面の役人に棒で殴られ氣絶させられる

真備

諸兄

玄昉

ああ、あんまり手荒な真似は、ね

一応かつての親友だから、ね

こいつらがいつ人の姿になり、いつ鶴の姿に戻るのか、その境目は私にもはつきりとはわ
りません

気分の問題?

かもしれない。もしくはもっと大事な秘密がそこには…
しつ

光明 玄昉 アベ

葛籠の蓋が開けようとしている
みやこが中から飛び立つ姿勢

みやこ

キーフ！（蓋閉められる）

アベ

真備

光明 玄昉

光明

光明

光明

鶴になつて飛んで逃げるかと思った
そう思いましたね、今ね

ねえ、そのような怪しき者と今の帝を対面させて本当に大丈夫なのですか？

そのような者でも、帝のお母上であることは間違いないのです、皇后さま。生まれてすぐに
引き離され、帝は母の愛というものを御存知ない。引きこもられた帝の心を取り戻すために
は、お母上との対面という刺激が何よりよい効果を

帝の前で突然鶴にでも変わられたらどうすんの？

それはそれで大きな刺激に

ないわ。だいたい私はこの人が鶴だなんて、基本的に信じてませんから

何にせよ、帝の気が逸れればよいのです

：私にも鶴の血が流れている。半分の半分だけ

アベが鶴のポーズをとる

光明

あんた、あんまりまともにとりなさんなよ。「こんなどんでも陰謀論、一體どんなからくりで
仕込まれたものか。何せあの父、藤原不比等の仕掛けだからね

お面の役人があ面をとると顔は不比等にそつくりな男（仲麻呂）

仲麻呂

光明

それでは都へ戻りましょう
よくやつた仲麻呂。東人を餌に大伴子虫をおびき寄せるとほ、まるでかつてのお父上を見る
よう。さすが藤原家復興の切り札

仲麻呂

真備

仲麻呂

長屋王邸から逃亡した大伴子虫の行方は以前から掴んで監視しておりました。న「にみや」
様と思しき女がいることも
与兵衛はどうなんの?
皆さまのご親友をまさか成敗するわけにもいかない。だがこの男は色々と知りすぎています。
野に放つわけにもいきますまい。一旦はこのまま都へ連れて行き、ぐるみに住まわせ、厳重
に監視することとしましよう

一行は藤原京から平城京へと戻つていく

かぐや
うねび
三体
かぐや
三体
うねび
みみなし
三体

この仲麻呂という男はあの藤原不比等に一見似ているが、実は本人である
藤原仲麻呂は疱瘡で死んだあの四兄弟の長男武智麻呂の子。つまり不比等の孫
と、装っているが実は不比等である
頭から何から色々と偽装しているが中身は
不比等である
その身体は実は折紙でできている
我ら生きる屍が丹精込めて折りました
ひひひひひ…つづき

7 大いぶつ

平城京に着いた一行
葛籠から出てきたみやーじが、聖武帝と対面する

（若いみやこを見て）…そんなわけないだろ…

驚きは「」もつとも。若すぎる！つていうか「」れじや娘の年といつてもいじじゃないかと。しかし帝、世の中すべてのお婆さんが、等しくかつてはピチピチの十代だったのです。お母君みやこ様は三十六年間、山奥の暗い邸の奥の間で病に臥せておられた。それだけ徹底的に強い陽の光のあたらぬ陰で静かに生きていれば、色々劣化しないんでしょうね。知らんけど…母上か？

…絶対に見ないでくださいね（奥の部屋に入ってしまう）

しゃべった

はい、お疲れ様でした。帝、今日は「」までです。みやこ様は大変お疲れです。何せ三十六年間、一日も外に出なかつたんです。帝も、これは大変な刺激で「」ざいましたでしょう。そろそろお休みいただかないといけません。また明日にあらためて。とこうことで後のことはこの玄昉にすべからくお任せを（みやこの部屋に入つていく）

…帝はこのところすっかり、誰の目にも明らかなほどに心身が憔悴の極み、恐ろしい疫病による藤原四兄弟の死がよほどにこたえているようでした。そんな中、長屋王一家の処刑が藤原一族による陰謀であったことが、あらためてまことしやかに噂されました。帝「」本人がどうだけ事件に関与していらしたのか、私にはわかりませんが…

叔母上、朕はつかれているようです

「もうでしうね」と冷たく突き放すような言葉が思わず口をついて出て、その声色が纖細

聖武
元正

元正

聖武
玄昉

聖武
みやこ

聖武
玄昉

聖武
みやこ

な帝の心にまた響くのでしょうか。一瞬泣きそうな顔になつたかと思うと、次の瞬間には、あの子供の頃に慄いた、オババの帝の恐ろしい、思い詰めた狂人の表情がその瓜二つの面影に浮かのぶのです。私たちに見えていたその日の劇的な光景も、そんな帝の目には全く違う風に見えていたのかもしれません…

葛籠の中から鶴（ペペット）が出てきて聖武帝と対面する先ほどのイメージ

聖武
みやこ（鶴）

…そんなわけないだろ
…絶対に見ないでくださいね（変な声）

現実に戻る

聖武
…そんなわけないだろ…あれが母上のわけがないだろ！あれは何者だ？何のために朕の前に現れたのだ？どうか。そうに違いない。あれば、朕にバチを与えるために吐きだめのよくなこの世に降り立つたカミの化身…

聖武はみやこを追いかけて奥の部屋に

御簾の奥で玄昉が汗だくになりながら、紙をすいている大きな折鶴人の絵を描いている
鶴人が紙をすくたびに出来上がったその紙に絵を描いていく
狭い部屋中に玄昉の絵が吊り下げられたその光景は、かつて暮園のボロ小屋での光景と似ている
折り鶴人がみやこに見える時もある
玄昉がみやこと折り重なつて折鶴を折つているように見える瞬間もある
玄昉は完成した折鶴の絵を描ききり、みやこは完成した紙を帝の前に

聖武
みやこ

玄昉
群衆

あ！
あら、玄昉さんのお友達？じゃあ、目一杯おもてなしをしないとね
うおー！

♪鶴だ、鶴だ。鶴人だ、鶴人が都に禍運びよる！

帝、いい機会のようですから、人ならぬ奴婢としてお仕え申しあげた暮園での日々以来、この玄昉が長年考え続けておりますことを申し上げます。夕暮れの空を飛ぶ鶴は禍を運んでくるのではない。どこか海の向こうの遠くの大地に生えた、命そのものを運んでくるのでござります。その、はじめは凝り固まつた命を叩いて煮込んでほぐして乾かし、磨り潰して粉にして、水に溶かして、振りながら慎重にすくいあげて、からうじて再びひと繋がりになつたものをまた乾燥させる。この複雑な工程を効率よくこなすために、鶴が一時的にとる変態形態が人間に似ている、もしくは、人間です。こうして出来上がつた真っ白な力ミを、鶴は自らの姿に折り上げて、命のよつゞいろとなる新しい真っ白な肉体を作り上げ、その新居へいわば魂を遷都するのです

玄昉？

これぞ鶴千年の命の秘密。命は永久にひとつに繋がり、千年の前に、一瞬一瞬の穢れも悲哀も、忘却の彼方へ浄化される。鶴は今ここにとどまらない。どこまでも時の彼方を向き続け、長い目で明日へ向かつて命を届け続けるのです

何を言つてるんだ玄昉？

わかつてます。自分でも何を言つてゐのかわからなくなつてます。こんな話、しかもこんな格好で、人に対するのは初めてなんです
…よくはわからぬが
はい

聖武
玄昉

聖武
玄昉

聖武
玄昉

聖武
みやこ

うおー！

朕はこれ、力みでできていいるのか?
その力みを折り上げる」といへ、人生ではないでしょうか（折り鶴を渡す）
♪命寿ぐ ゆうべの夢へ

一方与兵衛が監禁されている牢の前に真備がいる
帝は玄昉の描いた折鶴を母として愛でる

帝はすっかりマザー鶴の不思議な魅力にはまつたみたいでよ、毎日朝から晩まで閉じこもつてみやこ様べつたり。それ以外の他のことに対する興味を失われた。全部あの玄昉のせいよ。人間以下の奴婢から国一番のエリートになつちまつて、今じゃ鶴を自在に操つて、すつかり帝の振付師よ

与兵衛
おまえだって同じだろ、うんず

真備

与兵衛

真備

与兵衛

真備

与兵衛

真備

素直に暮園へ帰つて、一生のんびり草でも育てて暮らせ

仲麻呂が現れ牢から与兵衛を出す

仲麻呂

真備

仲麻呂

真備

仲麻呂

真備

与兵衛

光明皇后が現れる

光明

真備

光明

聖武、元正、アベ、玄昉が玉宮の一室にて

元正

ある夜の事、皇太子であるアベ内親王は玄昉を伴い、帝と私を前にして、盧舎那仏についてのお話をなされました。玄昉が唐の国にいた時に日にした巨大な石仏です。ところが玄昉は体調が思わしくないのか、そして暑くもないといふのに、大粒の汗を額に浮かべて、肝心の石仏の説明がどこかどこの要領を得ません
ええ…つまり…その…盧舎那仏様と一口で申しますが…ええ…それはつまり…つまると

玄昉

真備殿、その前にこの与兵衛には先約がございましてな。まあ行くぞ
ちょっとお待ちを仲麻呂殿。聞いておりませんな。先約とはどういふ?
皇后様直々の内密のお役目をこの与兵衛はすでにいただいております。な
そなのか与兵衛?

：

少々、遅かつたようですね
どんな役目だ、与兵衛?

真備、おまえのいう条件ではこの男はもう鶴女に一度と会えぬ
皇后さま
だが私の頼みを果たせば、鶴女はこの男の元へ帰つてくるんだよ

ପ୍ରକାଶକ ପତ୍ରର ପରିଚୟ

七八

宇宙

宇宙？

玄昉 聖武 アベ 聖武

……うなづくの……うなづくの……うなづくの……うなづくの……うなづくの……

七八

宇宙の中心と

宇宙の中心

だらまちの

だつちゅうの?

... 16

…つちゅうの…ちゅうひす…すん…で…あこを…ひせら…だ…だつちゅうの…だ…だい…
ぶつちゅう…だい…だいぶ…つちゅう…

大丈夫か玄昉？（玄昉は懐から煎じ薬を

これは大丈夫じゃないでしょう、明らかに

でも言つてゐ」とは、一度聞いたのでわか

の中心たる廬舍那仏様を、すなわち大仏様を建立してはどうかと言つておるので

大仏様

それより玄昉の様子がおかしくはないですか？（玄昉はさりに草を出して噛みはじめ、ぶつ

ぶつと床に向かつてしゃべり出してくる

待つて叔母上、皇太子、大仏様を建立するとは、それはつまり……

巨大な斬りを形にするのです

巨大な祈り

アベ

聖武

元正

玄昉

あるいは父上、巨大な贖罪を形にになりました

巨大な贖罪…

誰か、ある…玄昉、今宵はもうよい。そなたは下がつて…
帝、皆さま、お伏せください！巨大な指が、天上より巨大な指が、我らの命をおつまみに…

指が天から下りてきて玄昉の首をつまんで引きちぎって天へ上がつていく

途中でその指から首が落ちる

それが地上に落す前に、飛び立つた鶴が首をくわえて飛び去る

元正

その死の間際、玄昉がどういう理由で薬草を服用していたのか、その薬草をどーから手に入
れることになったのかは今となってはわかりません。ただ恐らくはそのせいで、最後の瞬間、
彼の眼には我々には見えない何か恐ろしい幻影が見えていたようでした

かぐや その功で、与兵衛はついにみやこを自らの手に取り戻した

与兵衛とみやこが暮す暮園のボロ小屋

銭を渡して一礼して小屋から顔を隠した（いつものお面）仲麻呂が出て行く

与兵衛は銭を数える手をふと止めて、夕暮れの空を見つめる

みやこ

（奥の部屋から疲れた感じで出できて）与兵衛さん、お友達は？田一杯おもてなしをしない
とね

与兵衛

みやこ

与兵衛

いや、いいんだ、みやこ、もう帰ったから
そうなの？そりゃ残念だ
それよりおまえ、疲れてんじゃないか？

みやこ ひまわり
与兵衛 おまえさん。だが、ちょっと仕入れに行つてもらおう。

みやこ 俺が行くから

そりゃあんたにや無理だよ。私がやつとくかひや。それより町へ行つてもなよ。ほい、今日はこれだけ（紙束を渡す）

みやこ…もう、これ、いいんだよ
え？

錢なら俺が稼ぐ。おまえのために、俺は何でもやるんだ

みやこ …じゃあ私は？

何もしないでいい

そんなわけにはいかないだろ？

ただ俺の傍にずっといてくれればいいんだよ

…私だって、生きて行かなきゃいけないからや

え？

（折り鶴を折りながら）あつひの時といつひの時を繋ぐの、たっやあ必死の毎日でや…

みやこ みやー…

与兵衛 疲れてる暇もなくてや

行つちまうのか？

振り返る余裕もなくてや

だつたら何で、最初に会つたあの時、何である時、うつに来たんだよ？

…そりゃあんた、恩返しだよ

みやこ…

千年も生きるからにはや、生きる限り、田一杯、おもてなしをしないとな

みやこ…
与兵衛 みやこ…

与兵衛

小さな折鶴を与兵衛に残し、みやーは与兵衛の田の前で鶴（折鶴）になつて飛び立つ／＼
同じ鶴を帝も田撃する

聖武　お母さん！（鶴のポーズ）

傷心癒えぬ帝は、その鶴を追いかけ、誘われるよつにはねか遠くの地へフリフリと旅立たれます。まるで覚めない夢の中を彷徨うように、あつちへこつちへ、そんな足まづぬ帝を標にして、都があるじと彷徨う帝を追いかけた

聖武

朕はこの、朕の背をどこまでも追いかけてくる呪われた物語から抜け出したいのだ。そして

光明

いちちん、いちちん・何を言つてゐのオビト～帝とは大勢いる中のいちちんではないのです。
ちんこ世のすべてなのです。いちちんどいなかじゅつちん・ひやくちん、いえせんちん・
まんちんおくちん・ちようちん・さあ来たちようちん・ちようちんちようちん・
ちようちんちようちん……祭りだ、祭りだ～ソレ～今宵は祭りだ～わつしょしょい、わつし
よしょい～遷都だ遷都だ～引っ越しだ～ちようちん行列～ソレ、お待たせ～せんとく～ん
は～い

仲麻呂

みやー鶴に先導されて引っ越し遷都の鼓笛隊が一代田せんと君」と仲麻呂を先頭にあかひーかひーを行き来する

アベ　聖武　諸兄　アベ

そんなヤケクソ氣味な父が最初に都を移した先はあの橘諸兄の地元、恭仁（くに）京でした
そこに行けば朕もよく眠れるのだな、もうえ
何せ私が地元にいる頃は、毎朝寝坊して、お母さんに怒られてばっかりでしたからね
帝、いくつよく眠れたといつて、やがて田覚めるのです

諸兄

ただ少なくとも、夜型から朝型に変えた人で、元に戻すつて呟つてゐる人は聞いたことがあるませんね

よしーそこだーそこへ行こうーせんとくーん！

聖武
仲麻呂

アベ

聖武

アベ

聖武

アベ

聖武

アベ

聖武

アベ

聖武

アベ

光明
仲麻呂

アベ

光明

アベ

はーい
だが父の心身にまとわりつゝモノは、そう単純なモノではない。早寝早起きでも、帝の気分は一向に好転しない。私は氣分転換にと、かつて玄昉が語った廬舎那仏を御本尊とする難波の寺へと父を誘いました

(仮想の光るのが帝の顔に反射する) おお、これが廬舎那仏か…何と…何と有難い…(異常な涙を流す)
そうして滂沱の涙を垂れ流す父は何だか一気に年を取ったように見えました…それから思
い余つた父は勢い余つて都を…難波に遷都します

せんとくーん！
はーい

(アベに) あなたあんまり帝に引寄せられないとしづらくなっちゃダメよ。つられてあなたまで病気になつたらどうするの? もうあの人には完全にアレだから。あなた皇太子なんだから、そろそろ準備しどきなさいよ。忘れないで。あなたは藤原の王になる約束の子なのよ

(鶴のポーズ)

ちょっとそれもう本当、やめなさいって!

約束の子…そう呼ばれた王たちこそ、この百年の呪いの源だった…
でもみんな、星の如き白い光に包まれた、美しい天子たちでしたよ (一気に老いている)

大母様:

あなたもそうね
…この元正上皇の存在が、帝たる血筋を継ぐ者がすべからく、呪いの宿痾から決して逃れる

ことができない生きた証だ。この方ほどの志と強い決意を持つても、その人生は都から逃げる」とはできなかつたのだからせんとくくん！

はーい

：そしてこの狂つた帝が最後に遷都を宣言した先が淡海、紫香楽（しがらき）

♪滴る心地 紅の

恐れながら父上、これでは結局、一朕からやりなおすどいわか、同じ物語の冒頭に戻つてしまつただけですか？

しつ！お母さんがまた飛び立つよ！

こうして季節が巡ると鶴はまた故郷寧楽へと帰つてくれる
せんとくくん

結局帝は平城京に戻り、百官を集めてこう宣言した

だつちゅうの…だつちゅうの…だいぶつちゅうの…だいぶつちゅうの…

父上…誰か！誰か水を…（清廉の滝の音）

この養老の水を帝に

だいだいだいだい、だい、だいぶつちゅる…

こうしてここ寧楽の地にて大仏建立が宣せられ、真備が計画の陣頭指揮を執ることとなつたこの国家の大プロジェクトの成功こそは、「この国が新たなフェイズに入るためのイニシエーションであり、まさに人間精神のレボリューション！」

とち狂つた父聖武帝がはた迷惑な放浪の果てに辿り着いた、巨大な祈りと贖罪の一大国家事業。大量に必要な現場の人夫を組織するために荒野の僧、あの行基が呼ばれた。病に伏した元正上皇たつての願いであったという

そりや伝助、おまえの頼みやさかい、わしも最後の大仕事やと思うて、やるけどもやな、疫

行基

アベ 聖武 真備 元正

アベ 聖武 聖武 聖武 三体

アベ 尾女歌人 仲麻呂 聖武

病に貧困、飢饉に大地震。ただでさえ世はすでに釜茹で地獄や。そこにおまえさんらは、さうに熱湯注ぐんや。そのべらぼうな工事のために、一体いくつの命が失われるやうな。仏様を鑄造するために注がれる熱い熱い赤銅の熱湯、それと同じだけの量の熱い熱い血と涙がこの大地に吸われていくやう。それでもやるけどもな。何でか? 一つには、作るもののが他ならぬ仏様やからや。どんなに地獄でも、仏様がこの宇宙の中心にいはる、そのことを皆が心に刻む大事な機会やからや。それが祈りやからや。わしらは祈る。祈り続ける。命は次々に失われていったとしても、また残った命がその祈りだけは明日へ繋ぎ続ける。大きな大きな仏様の顔をその目で仰ぎ見ながらな

そして行基様、もう一つには?

もう一つには、それが元正上皇様、あなた様の、逃げる」となく赤銅の地獄を一生背負つてこうされた他ならぬあなた様の願いだからでござります。それが果たして、ほんの一滴にすぎなくとも、清廉の滝より落ちる、澄んだ水をこぼすわけにはまいりません。その水は我らすべての命を潤す一滴の水なのだ。これもまた、明日へ繋ぎ続ける我らの祈りでござります
元正上皇は大仏の完成を見ることなく旅立たれました: 鶴は飛び立ち、夕空の向こうへ去つていくけれど、人の命はどこへ去つていくのだろう?
恐れながら…

何?

伝助の水はきっと、あなた様の内に
え?

さあ、そろそろ大仏様のお姿も見えてまいる頃ですかなあ

そう言い残して行基様もこの世を去りました: 澄んだ思いを繋いだ人たちの命は立て続けにどこかへ去りやがて三笠の森の木々の向こうに、まだお顔になりきらぬ、大仏様の面影が見えてきました

元正 行基 アベ 行基 アベ 行基 アベ 行基 アベ

大仏のシルエットが遠くに見えている（実際は遠くを見ていの）

一同

真備

おおお…
結構なリアクションまいとあります。本田プレオーブン公開ところと今
工程の七割程度まで来ます。この後…

聖武

真備

真備くんさ、真備君さ、何かーい、ちょっと思つてたのと違つんだよね

あ、そうですか、はい

もつと顔がね、もつといつ、まづ口が突き出でるんだよ、簡単に言えればね。思つてるより結
構出てるんだよ。ともすれば尖つてんの。先が。うん。そりじやないと虫とか捕れないしさ、
うん

帝、廬舎那仏様の話ですよね？

だから、とにかく顔がもつと小さいのよ。思つてるより全然小顔。それだよ、そこ。もう本
当にね、小さいんだわ、頭が。つまり脳？

…イエス

脳？

イエス

脳？とにかくあのが。だから難しい事は考えられないのよ。しょうがないじゃない？真備君
さ、ちゃんと修正して

修正イエス

真備

森林越しに大仏のシルエット（セット）が見えてくる

諸兄
真備

諸兄
真備

諸兄
真備

諸兄
真備

だいぶつるだね
だいぶつるだね
だいぶつるだね
だいぶつるだね

だいぶつるを見ながら最期の力を振り絞つて鶴のポーズをとる聖武帝

アベ

その大仏様の完成を待たずして、父聖武帝もあの世へ旅立ちました。帝の座は皇太子のこのアベが引き継ぎ、平城京最後の女帝孝謙として即位。大仏様の完成を見届けました

屍女歌人

♪春すぎて夏きにけらし白妙の衣干すてふ天の香具山

大仏落慶法要

鶴のポーズを刻む孝謙

光明皇后とともに元明、元正、文武、吉備、長屋王、橘美千代そして持続の影が居並ぶ
皇后ミヤコの姿も見える

暮園を去り旅に出た与兵衛がそのダイブツルの景色を田撃し、天啓に打たれる

孝謙

しばしの時が経ち、ある一人の若い僧が私の前に連れてこられました

仲麻呂が与兵衛を孝謙帝の前に連れてくる

おお、だいぶ進んだな、うんず君、いよいよ完成も見えてきたか?
果たしてこれが帝のご希望イメージに沿う大仏様なのかどうか…

うーん…だいぶ、鶴だな

だいぶそうだね
これ、だいぶつるだ

だいぶつるだね
だいぶつるだね

孝謙

仲麻呂によれば、私が揉め事もなく、至極穩やかに女帝に即位した陰で、その男が障壁となる雑草を根気よく間引いてきたそうです。母光明の命だつたのでしょう。ところが男は大仏様を一目見るなり、何かを思い詰めて出家し、突如野に彷徨う僧となりました。仲麻呂は知つてはいけないことを知りすぎたその男を密かにじき者にしようと何度も暗殺を試みますが、男は無類の頑丈ぶりを発揮してしぶとく死なない。死がないどころか、いつまでも若くて質実剛健。その日はギラギラと生気に満ちている。しかしついに、男は仲麻呂に屈し、その命を差し出すことを決意します。その代わりにすべての罪を帝の前で告白したいと語ります。斬つても斬れぬその男を仲麻呂はとうとう止めることができず、その日、私に謁見した与兵衛というその男は、ここまでの数奇極まる鶴と絶望の物語のすべてを私に語つたのです。そして田の前でその命を絶とうと何度も何度も自らの体に刃をつき立てるのですが、どうしてもどうしても、死ねない…男はひとしきり焦りまくつて、怒りまくつて。拳句にひとり泣きじゃくつて、やがて野に彷徨う僧の顔に戻りました：（滝の音）滝の音が聞こえてきて、私の田からは命の水が流れました…ああこれは、元正の大叔母様が養老の地より繋いでくれたあの水だ…遙か遠くの地より、空を渡つてこの清き水をもたらすものこそが帝と呼ばれるべき者なのだ。それは生きる」とへの恩返しなのだ…私は悟りました。百年にわたつて王家を追いかけてきた、すべての呪いを断ち切るには、この男にこそ帝の座を譲らねばならぬと！そうしてこの女帝は、どこの馬の骨ともわからぬ与兵衛という男に道鏡という立派な名を与え、自らの跡継ぎに据えようとなされた愚行がもとで王宮の者たちの信頼を失い失脚、結果、平城京は縁起の土地として捨て去られ、時代は藤原氏千年の栄華、平安京の時代へと…せんとくくん

群衆
仲麻呂

はーい！

繰り返される遷都の光景

しかしそれは皆すでに死んだものの影である
行進が終わると人々は屍となつて倒れる
仲麻呂一人が生き残り、かつらを取ると不死身となつた不比等の姿
不比等は京都へ去り、以後不死身の藤原の時代が千年続く

三体
屍樂人

♪滴る心地 涙目の皺も割れゆく 千歳雨 沁みて潤う 鶴千年亀万年

今やこの平城京は時の彼方に忘れ去られた廢墟にございます。かつてその縁起を歌い語りし、生死の狭間に漂う屍たちの姿ももうありません。この地にはもう歌い語るべきものが何も残つていなかからです（眠る）

三体
鶴千年亀万年 人間五十年

掃きだめのように折り重なる醜い屍の隙間に
氣高い鶴の姿が一瞬見えたような気もする

おわり